

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年6月21日

【事業年度】 第71期(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

【会社名】 株式会社小森コーポレーション

【英訳名】 KOMORI CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 持田 訓

【本店の所在の場所】 東京都墨田区吾妻橋3丁目11番1号

【電話番号】 03 5608 7811(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 松野 浩一

【最寄りの連絡場所】 東京都墨田区吾妻橋3丁目11番1号

【電話番号】 03 5608 7811(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 松野 浩一

【縦覧に供する場所】 株式会社小森コーポレーション大阪支社
(大阪府大阪市城東区蒲生2丁目11番3号)
株式会社小森コーポレーション名古屋支店
(愛知県名古屋市中川区愛知町4番6号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
売上高 (百万円)	69,825	91,837	91,259	95,326	86,618
経常利益 (百万円)	1,762	10,098	7,841	6,508	1,430
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損失 ()	1,899	13,657	7,569	6,522	657
包括利益 (百万円)	359	14,370	10,633	3,287	2,960
純資産額 (百万円)	113,722	125,686	135,128	135,890	131,386
総資産額 (百万円)	143,957	172,407	184,622	188,173	180,100
1株当たり純資産額 (円)	1,835.17	2,028.31	2,180.73	2,192.83	2,256.47
1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額 ()	30.66	220.39	122.16	105.26	10.94
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	79.0	72.9	73.2	72.2	73.0
自己資本利益率 (%)	1.7	11.4	5.8	4.8	0.5
株価収益率 (倍)	-	5.8	12.5	12.4	130.7
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,794	13,430	7,483	11,935	793
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,759	7,086	8,684	1,352	4,261
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	7,745	8,820	2,529	2,778	7,669
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	38,054	54,392	51,556	59,140	54,652
従業員数 (名)	1,814	1,784	2,106	2,189	2,195

- (注) 1 売上高には消費税等を含んでおりません。
2 第67期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であるため、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3 第68期から第71期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4 第67期の株価収益率については、1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
売上高 (百万円)	57,393	77,686	72,314	73,551	67,208
経常利益 (百万円)	3,311	9,983	6,713	5,014	573
当期純利益又は当期 純損失() (百万円)	1,087	13,012	6,338	3,942	569
資本金 (百万円)	37,714	37,714	37,714	37,714	37,714
発行済株式総数 (株)	68,292,340	68,292,340	68,292,340	68,292,340	62,292,340
純資産額 (百万円)	108,666	121,336	127,621	128,306	122,098
総資産額 (百万円)	130,104	158,965	164,631	168,236	162,046
1株当たり純資産額 (円)	1,753.60	1,958.11	2,059.58	2,070.66	2,096.96
1株当たり配当額 (円)	10.00	15.00	30.00	40.00	40.00
(うち1株当たり中 間配当額) (円)	(5.00)	(5.00)	(10.00)	(20.00)	(20.00)
1株当たり当期純利 益金額又は当期純損 失金額() (円)	17.54	209.99	102.29	63.63	9.47
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金 額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	83.5	76.3	77.5	76.3	75.3
自己資本利益率 (%)	1.0	11.3	5.1	3.1	0.5
株価収益率 (倍)	-	6.1	15.0	20.6	-
配当性向 (%)	-	7.1	29.3	62.9	-
従業員数 (名)	1,055	1,056	1,089	1,091	1,094

- (注) 1 売上高には消費税等を含んでおりません。
2 第67期及び第71期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については1株当たり当期純損失金額であるため、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3 第68期から第70期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4 第67期及び第71期の株価収益率及び配当性向については1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。

2 【沿革】

当社グループは大正12年個人企業小森機械製作所として創業、以来オフセット印刷機械の製造、販売及び修理を業務とし鋭意技術開発に努力してまいりました。株式会社設立後の沿革につきましては、次の通りであります。

- 昭和21年12月 資本金100万円をもって株式会社小森印刷機械製作所を東京都墨田区吾妻橋に設立。
- 同月 大阪出張所を大阪市東区に開設(現在、大阪支社 大阪市城東区)。
- 昭和25年1月 足立工場(東京都足立区)完成。
- 昭和34年12月 本社を東京都墨田区吾妻橋の現在地へ移転。
- 昭和42年2月 歯車の切削研磨部門を分離し、小森精密ギヤー株式会社(現在、株式会社小森マシナリー・連結子会社)を設立、工場を松戸市南花島に設置。
- 昭和42年7月 本社工場を茨城県北相馬郡取手町(現在、取手市)に移転、取手工場として小型・中型印刷機の生産体制を確立。
- 昭和51年8月 印刷機械の関連装置組立部門を強化するため、株式会社高島製作所(資本金20百万円、山形県東置賜郡高島町)を傘下企業とする。
- 昭和51年9月 商号を小森印刷機械株式会社に変更。
- 昭和53年10月 足立工場を千葉県東葛飾郡関宿町に移転、関宿工場として大型印刷機の専門工場とする(現在、野田市)。
- 昭和57年2月 米国に現地法人コモリ アメリカ コーポレーション(連結子会社)を設立。
- 昭和58年4月 東京証券取引所市場第二部に株式を上場。
- 昭和59年4月 英国に現地法人コモリ ヨーロッパ リミテッド(現在、コモリ ユー.ケー.リミテッド・連結子会社)を設立。
- 昭和59年11月 東京証券取引所市場第一部に指定。
- 昭和60年6月 株式会社高島製作所が小森山形マシナリー株式会社(現在、株式会社小森マシナリー・連結子会社)と社名変更、山形県高島町に新工場建設(完成61年4月)。
- 同月 小森山形エレクトロニクス株式会社(現在、株式会社小森マシナリーへ吸収合併)を設立、電子部門の強化を図る。
- 昭和61年10月 蘭国に現地法人コモリ インターナショナル ファイナンス ビー.ヴィ.(現在、清算終了)を設立。
- 昭和63年9月 蘭国に現地法人コモリ ヨーロッパ ビー.ヴィ.(現在、コモリ インターナショナル ヨーロッパ ビー.ヴィ.・連結子会社)を設立。
- 平成元年1月 仏国に現地法人コモリ シャンボン エス.エイ.(現在、コモリ シャンボン エス.エイ.エス.・連結子会社)を設立。
- 平成2年7月 商号を株式会社小森コーポレーションに変更。
- 8月 米国に現地法人コモリ ウェスト インコーポレーテッド(現在、コモリ アメリカ コーポレーションへ吸収合併)を設立。
- 同月 伊国に現地法人コモリ イタリア エス.アール.エル.(連結子会社)を設立。
- 平成3年4月 蘭国の現地法人コモリ ヨーロッパ ビー.ヴィ.がコモリ インターナショナル ヨーロッパ ビー.ヴィ.(連結子会社)と社名変更、欧州の販売子会社の統括会社とする。
- 9月 仏国にコモリ フランス エス.エイ.(現在、コモリ フランス エス.エイ.エス.・連結子会社)を設立。
- 平成7年6月 米国に現地法人コモリ リーシング インコーポレーテッド(連結子会社)を設立。
- 平成8年1月 株式会社小森エンジニアリング(連結子会社)を設立、設計部門の強化を図る。
- 平成9年6月 特印事業部英国支部を英国に開設。
- 平成10年9月 香港に現地法人小森香港有限公司(連結子会社)を設立。

- 平成12年4月 株式会社小森プリジジョンヤマガタ(現在、株式会社小森マシナリー・連結子会社)が株式会社小森プリジジョンを吸収合併し、歯車の切削研磨部門を山形県高島町に集約。
- 同月 現地法人コモリ アメリカ コーポレーション(連結子会社)が現地法人コモリ ウエスト インコーポレーテッドを吸収合併し、米国の販売会社を統合。
- 平成13年4月 東芝機械株式会社よりオフセット輪転印刷機事業の営業譲渡を受ける。
- 平成13年9月 米国に現地法人コモリ エイチ アール ビー コーポレーション(現在、コモリ アメリカ コーポレーションへ吸収合併)を設立。
- 平成13年10月 台湾に現地法人コモリ タイワン リミテッド(連結子会社)を設立。
- 平成14年4月 株式会社小森マシナリー(連結子会社)が株式会社小森プリジジョンヤマガタを吸収合併し、経営資源の効率的活用を図る。
- 平成14年7月 茨城県つくば市につくば工場を新設。
- 平成15年12月 中国に現地法人小森国際貿易(シンセン)有限公司(現在、清算終了)を設立。
- 平成16年2月 豪国にコモリ オーストラリア ピーティーワイ リミテッド(現在、清算終了)を設立。
- 平成16年10月 蘭国に現地法人コモリ インターナショナル ネザランズ ビー.ヴィ.(連結子会社)を設立。
- 平成17年12月 つくば工場第二期工事竣工。
- 同月 中国に現地法人小森印刷機械(シンセン)有限公司(連結子会社)を設立。
- 平成19年9月 現地法人小森国際貿易(シンセン)有限公司の清算を結了。
- 平成20年6月 現地法人コモリ アジア テクニカル サービスセンター エス.ピー.(現在、清算終了)を設立。
- 平成21年10月 つくばプラント第三期工事竣工。
- 平成24年6月 中国に現地法人小森機械(南通)有限公司(連結子会社)を設立。
- 平成25年4月 株式会社小森マシナリー(連結子会社)が株式会社小森エレクトロニクスを吸収合併し、電子部門を集約。
- 平成26年5月 株式会社小森コーポレーションが東海ホールディングス株式会社(現在、株式会社セリアコーポレーション・連結子会社)の株式を取得。プリントエレクトロニクス事業を強化。
- 平成26年6月 シンガポールの販売代理店KM Link社の株式を92.5%取得。現地法人コモリ サウスイーストアジア プライベート リミテッド(連結子会社)に商号変更。
- 平成26年9月 マレーシアに現地法人コモリ マレーシア Sdn.Bhd.(連結子会社)を設立。
- 平成27年4月 東海商事株式会社が東海ホールディングス株式会社を吸収合併し、株式会社セリアコーポレーション(連結子会社)に商号変更。東海精機株式会社が、株式会社セリアエンジニアリング(連結子会社)に商号変更。
- 平成28年11月 現地法人コモリ サウスイーストアジア プライベート リミテッド(連結子会社)について、7.5%の株式を追加取得し100%連結子会社化。

3 【事業の内容】

当社グループは当社、子会社19社で構成され印刷機械の製造販売を主な内容とし、更に事業に関連する資材・機材の供給、ファイナンスの提供並びに不動産管理等のサービスを行っております。

生産体制は一部の製品を除き一括して日本で行う体制になっておりますが、販売体制は、海外の重要販売拠点に子会社を展開してグローバルな体制になっております。海外の重要販売拠点となっている海外子会社はそれぞれ独立した経営単位で、各地域での包括的な販売戦略を立案し、事業活動を展開しております。

各セグメントの事業内容は以下の通りです。

報告セグメント「日本」は、一部の製品を除き一括して生産しており、国内、中南米、及び中華圏の一部を除くアジアや海外証券印刷機の販売が含まれます。

- a 当社は(株)小森マシナリーより小型印刷機械を仕入、販売しております。
- b 当社は印刷機械を構成するインク供給、給紙、排紙、折機、電気機器等の各部分機器、及び機械を構成する部品、並びに事業関連サービスを(株)小森マシナリー、(株)小森興産、(株)小森エンジニアリングの各社から仕入れております。
- c 株式会社セリアコーポレーションは印刷機械その他印刷資機材を製造、仕入、販売しております。

報告セグメント「北米」は、主としてアメリカ合衆国での販売が含まれます。

- a 当社が製造販売する印刷機械の一部を、主としてアメリカ地区においてコモリ アメリカ コーポレーションが販売しております。コモリ リーシング インコーポレーテッドは、コモリ アメリカ コーポレーションの顧客への販売に対するファイナンスを行っております。

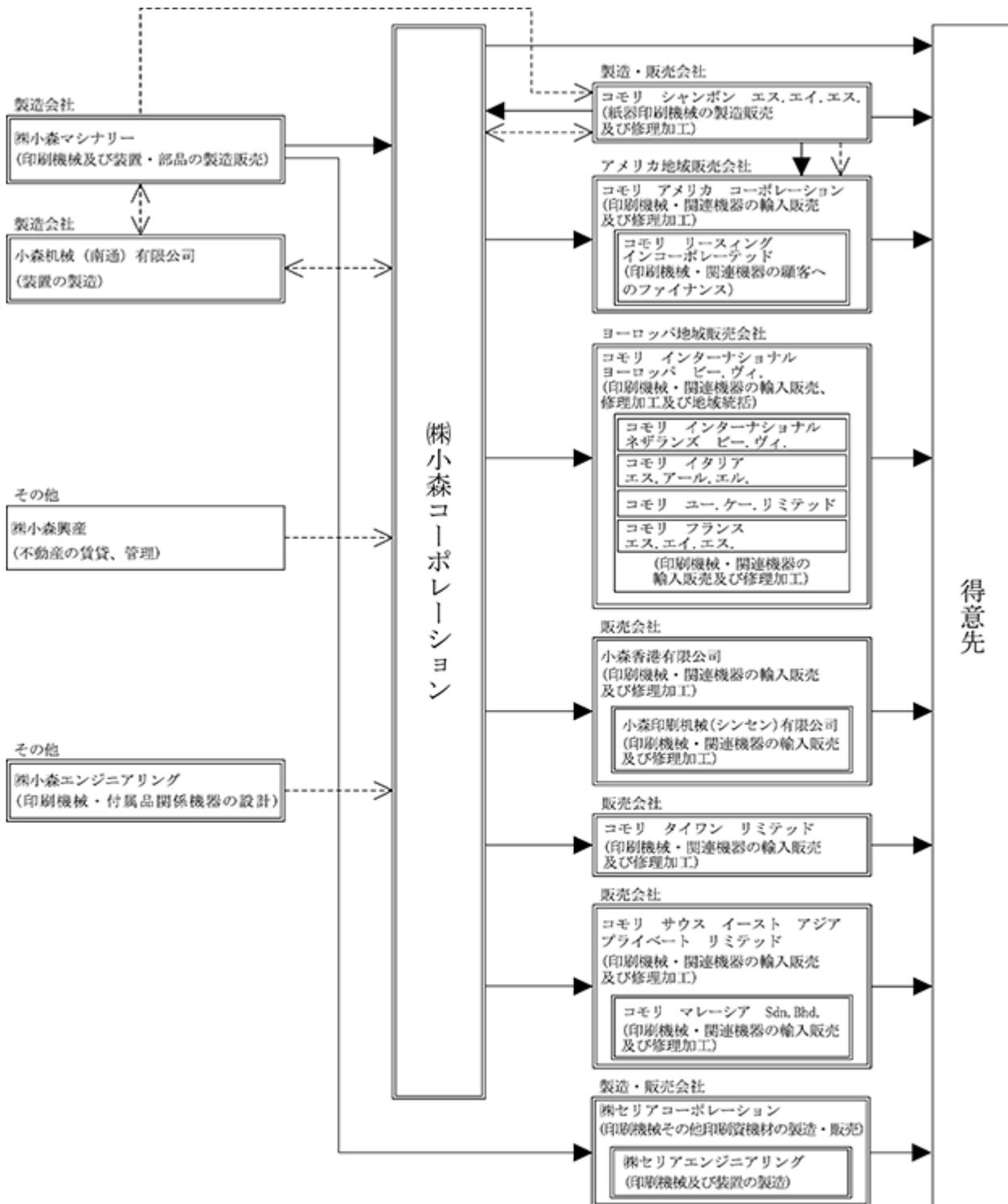
報告セグメント「欧州」は、主として西欧、東欧、中東地域での販売が含まれます。また、紙器印刷機械の製造販売をしておりますコモリ シャンボン エス.エイ.エス.も当セグメントに含んでおります。

- a 当社が製造販売する印刷機械の一部を、主としてヨーロッパ地区においてコモリ インターナショナル ヨーロッパ ビー.ヴィ.を経由してコモリ イタリア エス.アール.エル.・コモリ ユー.ケー.リミテッド・コモリ フランス エス.エイ.エス.・コモリ インターナショナル ネザランズ ビー.ヴィ.が販売しております。
- b コモリ シャンボン エス.エイ.エス.は紙器印刷機械を製造販売する他、集団各社を通じて販売することがあります。

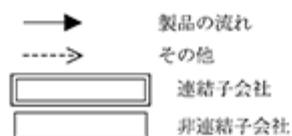
「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

- a 当社が製造販売する印刷機械の一部を、中国の香港他一部の地域において小森香港有限公司及び小森印刷機械(シンセン)有限公司、また、台湾においてコモリ タイワン リミテッドが販売しております。
- b 主としてアジア・オセアニア地区においてコモリ サウスイースト アジア プライベート リミテッド及びコモリ マレーシア Sdn. Bhd. が販売及びサービスの支援をしております。
- c 小森機械(南通)有限公司は印刷機械関連装置を製造しております。

事業の系統図は次の通りであります。



(注) 上記関連図は、平成29年3月31日現在のものです。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
株式会社 小森マシナリー * 1	山形県 高島町	1,600	印刷機械及び 装置・部品の 製造販売	100.0	当社の役員5名が同社の役員を兼務しております。同社は当社に対して製品、製品の装置及び部品の納入しており、同社は当社より一部の設備を賃借しております。
株式会社 小森エンジニアリング	茨城県 牛久市	20	印刷機械及び 関連機器の設 計	100.0	当社の役員3名が役員を兼務しております。同社は当社に対して設計サービスを提供しております。
株式会社セリアコーポレーション	東京都 北区	60	印刷機械その他印刷資機材の製造・販売	100.0	当社の役員5名が同社の役員を兼務しております。同社は㈱小森マシナリーより製品を購入しております。
株式会社セリアエンジニアリング	岐阜県 郡上市	54	印刷機械及び 装置の製造	100.0 (100.0)	当社の役員4名が同社の役員を兼務しております。
コモリ アメリカ コーポレーション* 2	アメリカ イリノイ州 ローリングメドウズ市	22,194 千米ドル	当社製品の販売並びに修理加工	100.0	当社の役員5名が同社の役員を兼務しております。同社は当社より製品及び部品を購入しており、当社は銀行借入債務等に対する保証等及び貸付を行っております。
コモリ リースینگ インコーポレーテッド	アメリカ イリノイ州 ローリングメドウズ市	1,000 千米ドル	印刷機械及び 関連機器の顧客向けファイナンス	100.0 (100.0)	当社の役員1名が同社の役員を兼務しております。同社はコモリ アメリカコーポレーションが販売する顧客に対してファイナンスを行っております。なお、当社は同社に貸付を行っております。
コモリ インターナショナルヨーロッパ ビー.ヴィ. * 1	オランダ ユトレヒト市	1,452 千ユーロ	当社製品の販売並びに修理加工及び地域統括	100.0	当社の役員5名が同社の役員を兼務しております。同社は当社より製品及び部品を購入しており、当社は銀行借入債務等に対する保証等及び貸付を行っております。
コモリ フランス エス.エイ.エス.	フランス アントニー市	1,829 千ユーロ	当社製品の販売並びに修理加工	100.0 (100.0)	当社はコモリ インターナショナル ヨーロッパ ビー.ヴィ.より製品及び部品を購入しております。
コモリ イタリア エス.アール.エル.	イタリア ミラノ市	520 千ユーロ	当社製品の販売並びに修理加工	100.0 (100.0)	当社の役員1名が同社の役員を兼務しております。同社はコモリ インターナショナル ヨーロッパ ビー.ヴィ.より製品及び部品を購入しております。
コモリ ユー.ケー. リミテッド	イギリス リーズ市	6,200 千英ポンド	当社製品の販売並びに修理加工	100.0 (100.0)	当社の役員1名が同社の役員を兼務しております。同社はコモリ インターナショナル ヨーロッパ ビー.ヴィ.より製品及び部品を購入しており、当社は銀行借入債務等に対する保証等を行っております。

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
コモリ インターナショナル ネザラズ ビー.ヴィ.	オランダ ユトレヒト市	1,000 千ユーロ	当社製品の販売並びに修理加工	100.0 (100.0)	同社はコモリ インターナショナル ヨーロッパ ビー.ヴィ.より製品及び部品を購入しております。
コモリ シャンボン エス.エイ.エス.	フランス オルレアン市	8,000 千ユーロ	印刷機械の製造販売	100.0	当社の役員3名が同社の役員を兼務しております。同社は当社に対して製品及び部品の一部を納入しており、当社は銀行借入債務等に対する保証等を行っております。
小森香港有限公司	中国香港特別行政区	18,116 千香港ドル	当社製品の販売並びに修理加工	100.0	当社より製品及び部品を購入しております。
小森印刷機械(シンセン)有限公司	中国 シンセン市	16,057 千元	当社製品の販売並びに修理加工	100.0 (100.0)	当社より製品及び部品を購入しております。
コモリ タイワン リミテッド	台湾 台北市	45,860 千新台幣ドル	当社製品の販売並びに修理加工	100.0	当社の役員1名が同社の役員を兼務しております。当社より製品及び部品を購入しております。
小森機械(南通)有限公司	中国 南通市	12,000 千人民币	装置の製造	100.0	当社の役員2名が同社の役員を兼務しております。同社は(株)小森マシナリーより部品を購入し、装置を納入しております。
コモリ サウスイースト アジア プライベート リミテッド	シンガポール	2,000 千シンガポールドル	当社製品の販売並びに修理加工	100.0	当社の役員1名が同社の役員を兼務しております。当社より製品及び部品を購入しております。
コモリ マレーシア Sdn . Bhd .	マレーシア クアラルンプール市	1,000 千マレーシア リングギット	当社製品の販売並びに修理加工	100.0 (100.0)	コモリ サウスイースト アジア プライベート リミテッドより製品及び部品を購入しております。

- (注) 1 「議決権の所有割合」欄の(内書)は間接所有であります。
- 2 上記会社のうち、有価証券報告書又は有価証券届出書を提出している会社はありません。
- 3 * 1 : 特定子会社であります。
- 4 * 2 : コモリ アメリカ コーポレーションについては売上高(連結会社相互間の内部売上を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。なお、売上高は10,119百万円、経常利益は3,711百万円、当期純利益は3,654百万円、純資産は782百万円、総資産は8,232百万円であります。
- 5 上記会社は連結子会社であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成29年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
日本	1,731
北米	97
欧州	214
その他	153
合計	2,195

(注) 従業員数は就業人員数であります。

(2) 提出会社の状況

平成29年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,094	41.58	17.39	7,093,088

- (注) 1. 従業員数は就業人員数であります。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 提出会社の従業員はセグメント「日本」に含まれております。

(3) 労働組合の状況

提出会社、(株)小森マシナリー、コモリシャンボン エス.エイ.エス.にそれぞれ労働組合が組織されております。
なお、グループ各社において労働関係について特に記載すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度における世界経済は、英国のEU離脱投票や米国の大統領選挙などの予想外の結果による影響を受けながらもいずれの地域も雇用情勢は総じて安定しており、資源需要の回復に伴う資源国経済の回復や主要産業のサイクル循環も上向き、景気回復局面が持続しました。我が国経済は中国・アジア向けの輸出が増加し、また企業の好業績を背景にした株高や個人消費も底堅く推移し景況感が改善しました。このような世界経済環境の中、印刷産業は、ICT（情報通信技術）の普及に伴い紙媒体による印刷需要が低迷しており、先進国では印刷需要が一旦下げ止まったものの、当連結会計年度では減少傾向が引き続き見られました。新興国では、人口の増加や中間所得層の拡大に伴い景気変動の影響を受けながらも引き続き印刷需要は伸びています。印刷機械市場の需要動向は、欧州では昨年5月にドイツで開催された展示会の販促効果もあり需要は堅調に推移しました。米国では大統領選挙後の更新需要が期待されていましたが、新政策見極めのためオフセット印刷設備投資への慎重な姿勢に目立った変化はありませんでした。中国市場は景気減速が底を打ったものの、ファイナンス審査は依然厳格であり、印刷機械への需要は低迷しました。アセアンなどのアジア市場は紙幣印刷機の需要が好調で、順調に売上げを伸ばしました。一方、日本市場では前連結会計年度にあった省エネルギー設備導入補助金による設備投資拡大の反動により需要の減少が見られました。

このような市場環境において、当連結会計年度は第5次中期経営計画（2016/4～2019/3）の初年度として、事業の複合化を目指す「事業構造変革」と、ソリューションビジネスにより営業領域の拡大を目指す「営業の業態変革」という2つの「変革」の完遂に向けて大きく前進した1年となりました。

「事業構造変革」では、海外向け証券印刷機事業、DPS（デジタル印刷機）事業、及びPE（プリンテッドエレクトロニクス）事業を推進し、事業構造の転換を進めてまいりました。海外証券印刷機事業ではつくば工場において証印商談会「CURRENCY Solutions 2016」を開催し各国の中央銀行や民間紙幣印刷会社へ当社の技術をアピールしました。また、インド、インドネシア、及び民間の紙幣印刷会社（米国）向け紙幣印刷生産ラインの受注に成功するなど大きな成果を上げることが出来ました。また、DPS事業ではデジタル印刷機インプレミア IS29のパイロットユーザーの評価を終えて各地域での内覧会を実施し、昨年12月より日本・米国・欧州・中国のユーザーへの納入を開始しております。PE事業では昨年6月に国際電子回路産業展（東京ビッグサイト）を初めとする国内の各種展示会や内覧会において電子部品業界などのお客様を対象にR to Rスクリーン印刷機、縦型両面スクリーン印刷機などを出展し、また各種消耗資材、製版などの商品提案を行い拡販に努めました。

「営業の業態変革」では、昨年5月にドイツで開催された展示会「drupa2016」においてハード商品群とソフト商品群を出展し、“つなぐ”をテーマにオフセット印刷機とデジタル印刷機の組み合わせによる生産の提案や、さらには後加工機をつなげた多彩な実演を通して、ビジネスの広がりの可能性を訴求しました。IoT技術で印刷工場とKOMORIをつなぎ、印刷会社の課題を「見える化」する「KOMORI ICTソリューションズ」の紹介や、KOMORIが推奨するインキ・消耗品等の印刷資材で印刷会社に安心感と安定感をもたらす「K-サプライ商品」の提案など、オフセット印刷機械メーカーならではのプリントエンジニアリング サービスプロバイダー（PESP）としての企業姿勢をアピールしました。

以上の結果、当連結会計年度における受注高は89,620百万円（前連結会計年度比2.3%減）となり、売上高は86,618百万円（前連結会計年度比9.1%減）となりました。費用面では、円高の進行等による売上原価率の上昇などが減益要因となりました。その結果、営業利益は1,712百万円（前連結会計年度比74.1%減）となりました。営業外損益は、前期に一過性の営業外収益として受取遅延損害金242百万円の計上があったことなどにより当期は収支が悪化し、当期の経常利益は1,430百万円（前連結会計年度比78.0%減）となりました。一方、特別損益では、固定資産の減損損失として、前期に182百万円を計上しましたが当期は553百万円を計上しており、税金等調整前当期純損益は、824百万円の利益（前連結会計年度比86.9%減）となりました。また、親会社株主に帰属する当期純損益は、前期は米国販売子会社における繰延税金資産計上による税負担の軽減がありましたが、当期はこのような事象はなく657百万円の利益（前連結会計年度比89.9%減）となりました。

地域別連結売上高の概況は以下の通りです。

(単位：百万円)

		前連結会計年度 (27.4.1～28.3.31)	当連結会計年度 (28.4.1～29.3.31)	増減率
売上高		95,326	86,618	9.1%
内 訳	日本	40,294	34,379	14.7%
	北米	12,758	10,124	20.6%
	欧州	17,461	16,820	3.7%
	中華圏	12,715	7,233	43.1%
	その他地域	12,096	18,060	49.3%

日本市場は、中国・アジア向けの輸出が増加し、また企業の好業績を背景とした株高や個人消費が底堅く推移し景況感が改善しました。印刷産業では更新需要が底堅く継続して受注は順調に伸びているものの、昨年の「省エネルギー設備導入補助金」による設備投資拡大の反動による影響が大きく、売上高は前連結会計年度比14.7%減少の34,379百万円となりました。

北米市場は雇用・所得環境が良好で、減税など新政権への財政政策に対する期待などから個人消費は堅調に増加しました。一方でオフセット印刷機械の更新需要への反応は鈍く、投資に慎重な姿勢が続いています。その結果、為替の影響も受けて売上高は前連結会計年度比20.6%減少の10,124百万円となりました。

欧州市場は英国のEU離脱選択や今年予定されている欧州各国の選挙による政治リスク拡大の影響を受け先行きに不透明感があるものの欧州中央銀行の積極的な金融緩和策により緩やかな景気拡大が継続しています。このような環境下で昨年5月にドイツ・デュッセルドルフで開催された世界最大の印刷機材展「drupa2016」において、オフセット印刷機及びデジタル印刷機、後加工機、印刷資材及びICTシステム等によるソリューションを提案してまいりました。受注・売上高ともに現地通貨では前連結会計年度を上回り好調でしたが、為替等の影響により売上高は前連結会計年度比3.7%減少の16,820百万円となりました。

中華圏は、企業部門の過剰債務・過剰設備解消の調整が続いているものの、インフラ投資など政府の経済対策により景気減速に歯止めがかかり、持ち直しの兆しが見られました。印刷産業では政府の大気汚染環境対策のため市街地から工業地域への移転が命じられるケースがあり、オフセット印刷機に対する投資順位が低下しております。また、金融機関の融資姿勢は依然として慎重であり与信審査が厳しい状態が継続しています。一方で投資余力のある有力印刷会社は、人件費の高騰に対応して自動化・省力化され、かつ高付加価値印刷が可能な印刷設備への更新に強い関心を示してきています。当社はこのようなニーズに対応すべく高付加価値印刷機としてパッケージ印刷機やネットプリンター向け印刷機などの製品ラインを拡充し、オープンハウスなどを通じて更新需要の喚起に引き続き努めましたが、元安の影響も重なり需要は限定的となりました。その結果、売上高は前連結会計年度比43.1%減少の7,233百万円となりました。

その他地域は、インドでは昨年11月に実施した高額紙幣廃止による混乱で成長の鈍化が見られました。一方、アセアン諸国では総じて堅調な内需に加え輸出の回復や景気対策の効果が出て緩やかな成長が持続しました。その他の地域の売上高は、オフセット印刷機需要では国・地域によってまだら模様でしたが証券印刷機の売上が順調に伸びたことから、売上高は前連結会計年度比49.3%増加の18,060百万円となりました。なお、当連結会計年度より、証券印刷機請負契約の一部について、工事進行基準を適用しております。詳細は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4 会計方針に関する事項 (5) 収益及び費用の計上基準 (追加情報)」をご覧ください。

セグメントごとの業績ごとの実績は次の通りであります。

日本

セグメントの「日本」には、日本の国内売上と、日本から海外の代理店地域や海外証券印刷機の直接売上が計上されております。同代理店地域には、香港・台湾を除くアジア（中国本土、アセアン、インド等）と中南米等が含まれております。上記記載のそれぞれの地域での業績を反映した結果、セグメントの「日本」の売上高は71,707百万円（前連結会計年度比7,744百万円の減少）となり、セグメント利益は437百万円（前連結会計年度は5,266百万円の利益）となりました。

北米

セグメントの「北米」には、米国の販売子会社の売上が計上されております。地域別売上高の概況で述べました北米の状況の結果、セグメントの「北米」の売上高は10,186百万円（前連結会計年度比2,604百万円の減少）となり、セグメント利益は75百万円（前連結会計年度は199百万円の利益）となりました。

欧州

セグメントの「欧州」には、欧州の販売子会社及び欧州の紙器印刷機械製造販売子会社の売上が計上されております。地域別売上高の概況で述べました欧州の状況の結果、セグメントの「欧州」の売上高は17,650百万円（前連結会計年度比876百万円の減少）となり、セグメント利益は672百万円（前連結会計年度は857百万円の利益）となりました。

その他

「その他」には、香港、台湾、シンガポール、マレーシアの販売子会社及び中国南通市の印刷機械装置製造子会社の売上が計上されております。地域別売上高の概況で述べましたアジアの状況の結果、売上高は5,065百万円（前連結会計年度比913百万円の減少）となりましたが、中国南通市の印刷機械装置製造子会社が損失を計上しており、セグメント損失は158百万円（前連結会計年度は84百万円の損失）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度に比べ4,487百万円減少し、54,652百万円（前連結会計年度比7.6%減）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度が11,935百万円の資金増加であったのに比較し、当連結会計年度は前連結会計年度に比べ12,729百万円減少し、793百万円の資金減少となりました。資金減少の主な内訳は、売上債権の増加額4,632百万円、仕入債務の減少額1,297百万円等であり、資金増加の主な内訳は、減価償却費の戻入額2,132百万円、税金等調整前当期純利益824百万円等であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度が1,352百万円の資金減少であったのに比較し、当連結会計年度は、前連結会計年度に比べ5,613百万円増加し、4,261百万円の資金増加となりました。資金減少の主な内訳は、有形及び無形固定資産の純増額1,467百万円等であり、資金増加の主な内訳は、有価証券の純減額2,984百万円、3ヶ月を超える満期の定期預金の純減額2,084百万円等であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度が2,778百万円の資金減少であったものが、前連結会計年度に比べ4,891百万円減少し、7,669百万円の資金減少となりました。資金減少の主な内訳は、自己株式の取得による支出5,001百万円、配当金の支払額2,440百万円等であります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次の通りであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
日本	65,608	12.6
欧州	1,746	24.8
その他	753	38.9
合計	68,108	13.3

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2 金額は平均販売価格で表示しております。
 3 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次の通りであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
日本	58,494	1.6	31,422	+14.5
北米	9,858	2.2	1,419	16.5
欧州	16,302	1.6	3,339	28.7
その他	4,964	11.5	2,131	6.9
合計	89,620	2.3	38,311	+6.1

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2 受注残高には、見込み受注分は含まれておりません。
 3 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次の通りであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
日本	55,509	8.3
北米	10,124	20.6
欧州	16,820	3.7
その他	4,163	9.4
合計	86,618	9.1

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、高い「経営品質」による「顧客感動創造活動」を通じて、世界中のお客様に感動していただける製品とサービスを提供し続けることにより、社会文化の発展に寄与していくことを基本理念としております。

また、株主の皆様やお客様をはじめ、取引先、地域社会、社員とその家族など、すべてのステークホルダーの信頼と期待に応えるとともに、共存共栄を図ることを行動指針として活動しております。

(2) 会社の対処すべき課題及び中期的な会社の経営戦略と目標とする経営指標

印刷産業は、電子媒体普及の影響を受け、出版関係を中心に伸び悩んでいるものの、日本・欧米を中心に高付加価値印刷やパッケージ印刷の需要は堅調です。また、新興国では中華圏の低迷が長引いているものの、インド・アセアン諸国などでは人口増や中間所得層拡大に伴い、印刷需要は伸びております。

このような環境の中、オフセット印刷機事業の収益基盤をより強固にする一方で、数年来着手してきた各新規事業の拡大により、事業の複合化を推進し、収益の安定化と収益力の向上を図ることが喫緊の課題です。このため昨年4月からスタートした第5次中期経営計画にて、「事業構造変革」（事業構造の複合化）を推進し「営業の業態変革」（印刷機械の販売から印刷プロセス全体のソリューション提案型営業への転換）と「モノづくり革新」（3工場体制での生産リードタイム短縮と製造コスト低減）等を通して「収益構造変革」を実行しております。（第5次中期経営計画の詳細は「株式会社の支配に関する基本方針 2.基本方針の実現に資する特別な取組み (2)中期経営計画を軸とする企業価値ひいては株主共同の利益向上への取組み」をご覧ください。）

当中期経営計画の初年度（当連結会計年度）は、事業構造変革においては、証券印刷機事業で新規顧客開拓により受注を大幅に増やし、DPS事業で新型デジタル印刷機インプレミア IS29の市場投入に成功するなど、事業の複合化を進めました。営業の業態変革では、PESP事業で周辺装置・消耗品などの商品を拡充するとともに、KP-コネクト（KOMORIソリューションクラウド）の国内販売を開始し、お客様の生産性と収益性の向上に資する総合的なソリューション提案を可能とする体制を整えました。一方、収益構造変革では、オフセット印刷機事業における中華圏の低迷などにより売上が伸び悩んでいることに加え、工場操業度の低下や想定を超える円高などで収益性が悪化し、収益力の改善が課題となりました。

2年目となる次期連結会計年度は、当連結会計年度の課題を踏まえた上でそれぞれの変革を推し進めてまいります。オフセット印刷機事業ではパッケージユーザー向け新製品拡販などを含む戦略的対応とアジア重要市場における販売・サービス体制強化に取り組み、DPS事業とPESP事業では海外を含む一層の業容拡大を目指してまいります。収益性の向上では、ICTを利用した業務効率の改善や販売管理費の削減を進める一方、モノづくり革新活動で多品種変量生産に対応した効率の良い生産体制を構築し、生産リードタイム短縮と製造コスト低減を図ってまいります。これらの確実な実現に向けて構造変革と業態変革を支える人材の育成・強化も計画的に進めてまいります。

また、財務戦略として、当連結会計年度に自己株式の買入れと消却を実行しましたが、引き続き資産・資本効率向上を意識した財務リソースの戦略的活用により成長戦略及び株主還元等を推進してまいります。

さらに、当社は環境対策として「グリーンプロジェクト」を立ち上げ、2030年までの長期エコビジョンを定めております。これを具体化すべく、環境にやさしい「製品開発を推進するエコプロダクツ」・「企業活動を推進するエココミュニケーション」・「生産設備のエコファクトリー」の「3つのエコ」についてそれぞれの中長期目標を設定し、活動しております。その中期目標として2020年までにCO₂排出量のマイナス30%（2010年比）の達成を目指しており、これらの活動を一步一步着実に進めることにより、ブランド力を高めるとともに業績の向上につなげてまいります。

これらの課題に経営資源を重点的に投入し、全社一丸となって取り組むことで、持続的安定成長を実現する経営基盤を構築し、企業価値向上を図ってまいります。

株式会社の支配に関する基本方針

1. 基本方針の内容

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の経営理念をはじめ当社の財務基盤や事業内容等の企業価値のさまざまな源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保・向上させる者でなければならないと考えております。

上場会社である当社の株式は、株主の皆様による自由な取引が原則であり、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方についても、当社株式の自由な取引により決定されることを基本としております。従いまして、当社株式の大規模な買付行為等についても一概に否定するものではなく、買付提案に応じるか否かの判断は、株主の皆様の意思に基づき行われるべきものと考えております。

しかしながら、株式の大規模な買付行為や買付提案の中には、明らかに濫用目的によるものや、株主に売却を強要するおそれのあるもの、その目的等からみて企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、対象会社の取締役や株主が買付の条件等について検討し、あるいは対象会社の取締役が代替案を提案するための十分な情報や時間を提供しないもの等、不適切なものも少なくありません。

このような大規模な買付行為や買付提案を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に反する大規模な買付等に対し、これを抑止するための枠組みが必要不可欠と考えます。

2. 基本方針の実現に資する特別な取組み

当社では、多数の株主及び投資家の皆様に長期的に当社への投資を継続していただくため、企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるための取組みとして、以下のような施策を実施しております。これらの取組みは、上記1. 基本方針の実現にも資するものと考えております。

(1) 当社の経営理念及び企業価値の源泉

当社は、大正12年の創業以来、90年以上に亘り印刷機械システムのメーカーとして品質と信頼を至上とするものづくりの原点にこだわり、世界各国へ高品質・高性能な印刷機械とサービスを提供することにより、印刷文化の発展に寄与してまいりました。

当社の経営理念は、「顧客感動企業の実現」であります。「顧客感動企業」とは、高い「経営品質」の実現を目指して、絶えず「顧客感動創造活動」を推進し、世界中のお客様に満足と感動をもたらす企業になることであり、具体的には「KANDO - PROJECT」を通じて次の3つの項目を推進しております。

「KOMORI」ブランドの創造活動と維持管理を実施する

知覚品質管理活動を徹底し、顧客満足を高める

ソリューションビジネスを推進し、顧客の利便性を高める

これら顧客を起点とした事業活動のプロセスにより築き上げられた顧客との信頼関係が当社の企業価値の源泉であります。

(2) 中期経営計画を軸とする企業価値ひいては株主共同の利益向上への取組み

当社は、企業価値ひいては株主共同の利益向上のため第5次中期経営計画を平成28年4月にスタートさせました。本中期経営計画の趣旨は、第4次中期経営計画の基本骨子である「事業構造変革」と「業態変革」の2つの柱を基本的には踏襲するものですが、当社の中核事業であるオフセット事業をより強化するとともに、第4次中期経営計画で策定し一部実施した戦略や施策をより具体化し成果を顕在化させること、当社の持つリソースを有効に活用しその潜在価値を可能な限り発現させることにあります。

第5次中期経営計画の主要戦略は以下の7項目です。

収益構造変革（営業業態変革・PESP [プリントエンジニアリング・サービス・プロバイダー]事業の拡大）

消耗品（K-サプライ等）、周辺機器（アプリシア等）、計画工事、それらを統合するソリューション（KP-コネク
トクラウドソリューションを含む。）の提供と事業拡大

モノづくりの抜本的改革（開発・製造）

新生産方式等の導入による多品種・変量生産への対応とリードタイム・在庫水準・コストの改善

DPS（デジタル印刷機）事業のビジネスモデル構築・事業化

コニカミノルタ株式会社と共同開発中のインクジェット印刷機インプレミア IS29、イスラエルのランダ社開発の
ナノテクノロジーと当社の技術を融合した次世代デジタル印刷機インプレミア NS40の市場投入と拡販及び当社独
自のビジネスモデル構築

事業間のシナジー効果創出による差別化強化

オフセット、デジタル、証券印刷、PE（プリンテッドエレクトロニクス）等の技術・ノウハウを融合した当社独自の付加価値の高いソリューションの開発と提供

人材育成・採用の強化、海外人材の活用

事業の複線化・役割変更に伴いスキルの向上、グローバル人材育成、マネジメント人材開発を行い、組織機能の合理化とともにスリムで機敏な組織体制を構築

間接業務の効率化・SGA20（販売費及び一般管理費の削減）

ICT（情報通信技術）、自社業務の外部委託等の活用による業務の効率化とSGA20推進による収益性の向上

財務戦略・M&Aの具体化

財務リソースの積極的な戦略的活用による資産・資本効率向上と成長戦略の推進及び配当・株主還元等資本政策の見直し

(3) コーポレート・ガバナンスの強化への取組み

当社は全てのステークホルダーの期待に応え、責任を果たし、企業価値の最大化を追求していくことが、経営の最重要課題の一つであると認識しております。その実現のためにはコーポレート・ガバナンスの確立が不可欠であると考えます。

当社では、「経営の透明性の確保」、「経営の意思決定の迅速化」、「コンプライアンスの確保」及び「経営のチェック機能の強化」を図ることを、コーポレート・ガバナンスの基本としております。この基本に従って経営の監視を含む諸問題に関して、コーポレート・ガバナンスが十分機能するよう取り組んでおります。また、取締役会の透明性を高め、監督機能の強化を目的として、当社は、取締役9名のうち社外取締役を2名選任しております。社外取締役を置くことにより、監督機能のより一層の客観性・中立性の確保が図られているものと考えております。

今後、コーポレート・ガバナンスの強化・充実に努め、企業価値ひいては株主共同の利益を追求してまいります。

3. 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みの概要

当社は、平成28年4月28日開催の当社取締役会において「当社株式の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）」（以下、「本プラン」といいます。）の継続を決議し、平成28年6月21日開催の当社第70回定時株主総会（以下、「本株主総会」といいます。）において、本プランの継続につき承認を得ております。

本プランの対象となる当社株式の買付とは、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、または結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為をいいます。

本プランにおける、大規模買付時における情報提供と検討時間の確保等に関する一定のルール（以下、「大規模買付ルール」といいます。）は、事前に大規模買付者が当社取締役会に対して必要かつ十分な情報を提供し、必要情報の提供完了後、対価を現金のみとする公開買付による当社全株式の買付の場合は最長60日間、その他の大規模買付行為の場合は最長90日間を当社取締役会による評価・検討等の取締役会評価期間として設定し、取締役会評価期間が経過した後大規模買付行為を開始する、というものです。

本プランにおいては、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、原則として当該大規模買付行為に対する対抗措置は講じません。ただし、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しなかった場合、遵守しても当該大規模買付行為が、当社に回復し難い損害をもたらすなど、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと判断する場合には、必要かつ相当な範囲で、新株予約権の無償割当等、会社法その他の法律及び当社定款が認める対抗措置を講じることがあります。

このように対抗措置を講じる場合、その判断の合理性及び公正性を担保するために、取締役会は対抗措置の発動に先立ち、当社の業務執行を行う経営陣から独立している社外監査役または社外取締役や社外有識者から選任された委員で構成する独立委員会に対して対抗措置の発動の是非について諮問し、独立委員会は対抗措置の発動の是非について、取締役会評価期間内に勧告を行うものとします。当社取締役会は、対抗措置を発動するか否かの判断に際して、独立委員会の勧告を最大限尊重するものとします。ただし、独立委員会が対抗措置の発動について勧告を行い、発動の決議について株主総会の開催を要請する場合、株主の皆様の本プランによる対抗措置を発動することの可否を十分にご検討いただくための期間を設定し、株主総会を開催することがありますが、大規模買付行為は当該期間の経過後にのみ開始できるものとします。当社取締役会は、株主総会において対抗措置の発動または不発動について決議された場合、当該株主総会の決議に従うものとします。

なお、本プランの有効期限は平成31年6月に開催予定の当社第73回定時株主総会の終結の時までとします。本プランは、本株主総会において継続が承認され発効した後であっても、当社株主総会において本プランを廃止する旨の株主の一定割合の意思表示が行われた場合、当社取締役会により本プランを廃止する旨の決議等が行われた場合には、その時点で廃止されるものとします。

本プランの詳細につきましては、当社ホームページ（<http://www.komori.co.jp/hp/>）に掲載しております。

4. 本プランが基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致し、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないこと及びその理由

当社取締役会は以下の理由から、本プランが基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を損なうものでなく、かつ当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

買収防衛策に関する指針の要件を充足していること

本プランは、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則）を充足しています。

また、経済産業省に設置された企業価値研究会が平成20年6月30日に発表した報告書「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」の内容も踏まえたものとなっております。

企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上を目的としていること

本プランは、当社株式に対する大規模買付行為がなされた際に、当該大規模買付行為に応じるべきか否かを株主の皆様がご判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保したり、株主の皆様のために買付者等と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させるといった目的をもってしています。

本プランの発効は、株主の皆様のご承認を条件としており、株主の皆様のご意向により本プランの廃止も可能であることは、本プランが株主共同の利益を損なわないことを担保していると考えられます。

株主意思を反映するものであること

当社は、本株主総会において本プランに関する株主の皆様のご意思を確認させていただくため、議案としてお諮りし原案通りご承認いただきましたので、本プランは株主の皆様のご意向が反映されたものとなっております。

また、本プランは、有効期間の満了前であっても、当社株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、その時点で廃止されることになり、株主の皆様のご意向が反映されます。

独立性の高い社外者の判断の重視

本プランにおける対抗措置の発動は、当社の業務執行を行う経営陣から独立している委員で構成される独立委員会へ諮問し、同委員会の勧告を最大限尊重するものとされており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に適うように本プランの適正な運用を担保するための手続も確保されており、当社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

デッドハンド型やスローハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、当社株主総会で選任された取締役で構成される取締役会によりいつでも廃止することができるものとされており、当社の株式を大量に買い付けようとする者が、自己の指名する取締役を当社株主総会で選任し、かかる取締役で構成される取締役会により、本プランを廃止することが可能です。従って、本プランは、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。

また、当社は取締役の任期を1年間としておりますので、本プランはスローハンド型買収防衛策（取締役の交替を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する防衛策）でもありません。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす事項は、以下のようなものがあります。

(1) 為替レート変動によるリスク

当社グループの海外売上比率は全体の半分以上を超えており、為替変動の影響を受けやすい構造となっております。主要な海外市場は、欧州、米州、中国を含むアジアであります。特定の地域への極端な偏重はありません。また、先物為替予約等でヘッジすることによりリスクの合理的な軽減を図っております。しかしながら、大幅な変動が生じた場合には、経営成績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

(2) 需要環境変動によるリスク

当社グループは、事業環境の変化に伴い、事業構造変革を推進し収益構造の複合化を図っております。その一環として、印刷機械の供給会社から、印刷技術サービスを提供する「プリントエンジニアリングサービスプロバイダー」(PESP)に変貌すべく、変革に取り組んでおります。具体的には、当社の印刷機械に最適な印刷前後工程の機器やインキ等の消耗品を商品群として取り揃え、同時にIoT技術を駆使した生産・品質管理システムの提供により、印刷工程全般に係る課題解決のためのソリューションを提案するなど、総合的な印刷技術サービスの提供活動をしております。しかしながら、変革が過渡期にあることから、総売上高に占める印刷機械の売上高の割合は大きく、需要環境変動によるリスクがあります。印刷機械の需要は、タイムラグはあるものの基本的には景気動向に強く影響されます。即ち、景気の悪化が当社のお客様の設備の稼働状況ひいては設備投資の意思決定に大きな影響を与えます。従って、当社グループの主要市場である日本、欧州、米州、アジアにおいて景気が大幅に悪化することになれば、当社グループの経営成績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

(3) 債務保証履行による損失発生リスク

印刷機械の市場では、お客様に製品を販売するにあたり、販売金融をつけることが競争上重要なファクターとなっております。そのため、当社グループは、製品を購入いただいたお客様のリース会社及び提携銀行への債務に対して必要な都度債務保証を実施しております。過去の損失発生実績率あるいは個別に検討して算出した損失見込額をベースにして引当金を計上しておりますが、景気が大幅に悪化した場合には保証先のお客様の経営破綻が起きる可能性もあり、当社の経営成績及び財政状態に悪影響を与えるおそれがあります。

(4) 全世界的な電子媒体の拡大により印刷市場が縮小するリスク

印刷業界は、インターネットや電子書籍の浸透によって先進国における出版関連印刷を中心に印刷需要が長期的に縮小傾向にあります。今後、インターネット等の電子媒体が新興国を含め世界的に急速に発展することによって印刷市場が一段と縮小した場合には、当社グループの財政状態及び経営成績が悪影響を受ける可能性があります。

(5) デジタル印刷機事業の拡大が停滞するリスク

印刷業界では、パーソナルマーケティングや消費者一人ひとりへの対応などのため、印刷物の多品種少量化・短納期化への移行が進んでいます。このため、当社グループは主力であるオフセット印刷機のオンデマンド印刷への対応を図る一方、多品種で極少量の印刷やバリエーション印刷を得意とするデジタル印刷機事業に参入しました。OEM供給によるA3サイズ用デジタル印刷機に続き、コニカミノルタ社と共同開発したB2サイズの最新鋭デジタル印刷機を市場投入しました。さらにB1サイズの次世代デジタル印刷機を開発中です。しかしながら、デジタル印刷機における競合の技術革新や新規参入、印刷会社のニーズの変化、その他デジタル印刷機事業の拡大を阻害する不測の事態が生じた場合には、当社グループの財政状態及び経営成績が悪影響を受ける可能性があります。

(6) 海外事業に伴うカントリーリスク

当社グループは、欧州、米州、中華圏及びアジアに販売会社を設けており、海外売上高は全体の半分以上を超えております。これら海外市場において、外国企業に対する暴動、内乱、テロ、戦争、自然災害、感染症などが発生した場合には、当社グループの財政状態及び経営成績が悪影響を受ける可能性があります。

(7) 製造拠点の集中に係るリスク

当社グループの主要生産拠点であるつくばプラントにおいて地震や竜巻等自然災害が発生した場合には、生産設備の破損、サプライチェーンの機能麻痺等が発生し、操業停止等の事態に陥り、当社グループの財政状態及び経営成績が悪影響を受ける可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

(1) 技術提携契約

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約締結日	契約内容	契約期間
株式会社小森コーポレーション(当社)	デ・ラ・ルー社 (DE LA RUE INTERNATIONAL LIMITED)	英国	平成29年2月6日	証券印刷機械システムの包括技術協力契約	契約締結日から平成34年2月5日まで有効
株式会社小森コーポレーション(当社)	ランダ社 (LANDA CORPORATION LIMITED)	イスラエル	平成24年4月27日	デジタル印刷技術のライセンス及び供給契約	契約締結日から契約終了まで有効

(2) 販売提携契約

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約締結日	契約内容	契約期間
株式会社小森コーポレーション(当社)	コニカミノルタ株式会社	日本	平成23年12月2日	デジタル印刷機の販売提携	契約締結日から契約解除まで有効
コモリ アメリカコーポレーション	SCREEN GP Americas, LLC	米国	平成27年9月11日	インクジェット印刷機の米国における販売提携契約	契約締結日から契約解除まで有効
コモリ インターナショナル ヨーロッパ ビー・ヴィ.	SCREEN GP Europ B.V.	オランダ	平成28年3月15日	インクジェット印刷機の欧州における販売提携契約	平成28年1月1日から契約解除まで有効
株式会社小森コーポレーション(当社)	Highcon Systems Ltd.	イスラエル	平成27年12月29日	デジタルダイカット&クリーニングシステムの日本における販売提携契約	契約締結日から契約解除まで有効
株式会社小森コーポレーション(当社)	中国・上海エテルナ マシナリー社	中国	平成27年8月7日	打抜機及びその周辺装置の製造委託、売買取引及び共同開発におけるODM契約	契約締結日から平成29年3月31日まで(契約解除まで有効)
株式会社小森コーポレーション(当社)	Siegwerk Druckfarben AG & Co. KGaA	ドイツ	平成28年5月31日	欧州、中東及びアフリカ(EMEA)における高感度UVインキの製造供給契約	契約締結日から平成30年5月30日まで(5年を上限とし契約解除まで有効)

6 【研究開発活動】

研究開発活動は、当社グループの事業戦略に基づき重要度及び緊急度の高い課題に重点的に取り組んでおります。当連結会計年度における当社の重要な研究開発成果は次の通りであります。

デジタル印刷機では、昨年5月に開催されたdrupa2016において、コニカミノルタ社と共同開発したインプレミア IS29(29インチ枚葉インクジェットデジタルプリンティングシステム)の販売を開始するとともに、ランダ社のナノテクノロジーを使用した革新的なB1デジタル印刷機インプレミア NS40を発表しました。

インプレミア IS29は、最大紙サイズ585×750mmに対応する最新鋭のデジタル印刷機で、UVインクジェット技術により、特別な用紙やブリコートを不要とすることが出来、通常のオフセット印刷用紙がそのまま使用出来る幅広い用紙適性、片面印刷時0.06～0.6mm、両面印刷時0.06～0.45mmに対応する紙厚適性、及び速乾・両面ワンパス印刷により、多品種・小ロット・短納期を実現します。また、オフセットと同等の高い表裏見当精度により、オフセットに迫る安定した高印刷品質を実現し、商業印刷はもとよりパッケージ印刷にも威力を発揮します。昨年10月にKOMORIヨーロッパにて開催したオープンハウスでは、ポーランド、ロシア、アラブ首長国連邦、トルコなど16カ国から200名以上のお客様に会場にいただき、インプレミア IS29の優れた柔軟性や機動性、オフセットライクな印刷をご確認いただきました。

インプレミア NS40は、Nanographic Printing®プロセス(Nanography®)を使用した画期的なシステムのデジタル印刷機です。数十ナノメートルサイズのナノ顔料粒子を色材として含む水性インク Landa NanoInk®を採用しており、インクジェットヘッドからブランケットに射出したインクを原反に転写させます。転写された画像は摩耗に強

く、印刷後の乾燥も不要で、ブランケット上のインク残りもありません。また、すべての既成印刷用原反(コート紙、上質紙、厚紙、プラスチック、特殊紙)が使用可能です。

リスロンGシリーズの性能を継承した全く新しい機種として最高印刷速度15,000回転/時の四六全判両面オフセット枚葉印刷機「リスロン GX44RP」を開発しました。両面印刷での「高品質化・短縮化・高速化・安定化」を徹底追求し、革新的なテクノロジーの新機軸を随所に採用しています。用紙反転のない両面ワンパスの機械構成により、反転機では構造上避けられなかった紙尻余白を不要にし、用紙サイズを最小限に抑えて用紙コストの削減を実現するとともに、薄紙から厚紙まで高品質で安定した紙搬送を実現します。

「リスロン GX44RP」は、印刷統合制御システムKHS-AIとH-UV・UV乾燥システムの採用により、最先端のショートメイクレディとパウダーレスの速乾印刷で、究極の小ロット・短納期対応を実現しました。また、A-APC(全色同時刷版交換装置)やPDC-SX(分光式色調管理装置SXモデル)、PQA-S(インライン枚葉機用印刷品質検査装置)などのオプション搭載で、さらなる品質・生産性の向上が図れます。

44インチ(四六全判)機により、雑誌、書籍などの出版関連や両面のパッケージ印刷において高品質で高い生産性を確保することが可能となります。

乾燥装置では、LEDタイプ乾燥装置である「H-UV L」の開発を行いました。高照射強度のLEDモジュールを採用しており、省電力で安定したUV照射強度を実現します。

証券印刷では、銀行券印刷プロセスを再構築する新概念「CURRENCY OnDemand」を発表しました。「CURRENCY OnDemand」は印刷稼働時間の最大化と銀行券デザイン性能の強化の2つを大きな柱としています。昨年10月にKOMORIつくばプラントにて開催した商談会「CURRENCY Solutions 2016」では、世界15カ国の中央銀行や国立印刷局、民間銀行券印刷会社からご参加いただいたお客様より「CURRENCY OnDemand」のコンセプトに対して高い評価をいただきました。

「CURRENCY Solutions 2016」では、3台の最新鋭の銀行券印刷機のライブデモを行いました。コンビネーションマルチプロセス番号コーター機「NV-532」は、KOMORIのユニークなシリンダー搬送技術の採用により番号印刷工程とニス塗布工程をワンパスで実現することができる画期的な機械となっています。さらに、モジュールデザイン技術により、切り替え時の洗浄作業などを同時に並行作業で行うことができ、ライブデモでは15分を切る、世界最速のジョブ切り替えをお客様にご覧いただきました。また、今回のライブデモではポリマー基材から銀行券用紙への切り替えを最高印刷速度12,000回転/時で行い、今回の実演の一番の見所となりました。

新たにアップグレードした銀行券印刷用オフセット印刷機「LC-1232」では、レインボー印刷のインキプリセット技術による素早い立ち上げや、オフライン自動見当測定機「PDC-SX」による高い見当精度をご確認いただきました。

新機能を搭載した銀行券印刷用凹版印刷機「IC-532」では、最高印刷速度12,000回転/時でインキカーブ速度自動追従技術による安定した印刷品質と、ワイピングタンクとシャブロン版の同時洗浄作業をご覧いただきました。

KOMORIグループのPE・精密機器事業を担うセリアコーポレーションは、11月9日から3日間、内覧会「2016 EXPO SERIA」をセリアエンジニアリング各務原工場において開催しました。会期中は、電子部品業界など多岐にわたる関連業界から約370名のお客様にご来場いただきました。

今回の内覧会では、PE市場で注目を集めている印刷機11台をはじめ各種消耗資材・機材などを展示しました。

ギャップレス同期型スクリーン印刷機「RYURONE-30SZ」

グラビアオフセット印刷機「PEPI0-F6、PEPI0-F20」

縦型両面スクリーン印刷機「SSA-DSV650-R」

CCDカメラ付き全自動PC印刷機「SFA-PC610ECTN」

縦型両面スクリーン印刷機は基材の投入・取出しのロボットを装備し、自動化の提案も行いました。モデルチェンジしたCCDカメラ付き全自動PC印刷機には、お客様から活発な質疑が寄せられていました。

なお、当連結会計年度の研究開発費は、4,884百万円(売上高比5.6%)であります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されています。当連結会計年度末における資産、負債及び純資産の計上、当連結会計年度における収益、費用の計上につきましては、過去の実績に基いた合理的な基準による見積りが含まれております。

なお、連結財務諸表作成にあたっての重要な会計方針等は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載の通りであります。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ8,073百万円減少して180,100百万円（前連結会計年度比4.3%減）となりました。資産の主な増加要因は、第4四半期の売上高の伸長に伴う受取手形及び売掛金の増加3,786百万円、投資有価証券の増加2,052百万円等であります。主な減少要因は、現金及び預金の減少9,321百万円、有形固定資産の減少1,062百万円、流動資産その他の減少998百万円、棚卸資産の減少806百万円、無形固定資産の減少522百万円、長期預金の減少500百万円等であります。

(負債及び純資産)

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ3,569百万円減少して48,713百万円（前連結会計年度比6.8%減）となりました。負債の主な減少要因は、流動負債その他の減少1,160百万円、支払手形及び買掛金の減少812百万円、未払法人税等の減少474百万円、電子記録債務の減少373百万円、退職給付に係る負債の減少306百万円等であります。

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ4,504百万円減少して131,386百万円（前連結会計年度比3.3%減）となりました。純資産の主な増加要因は、その他有価証券評価差額金の増加1,805百万円、退職給付に係る調整累計額の増加977百万円、親会社株主に帰属する当期純利益による利益剰余金の増加657百万円であり、主な減少要因は、自己株式の取得による減少5,001百万円、配当金による利益剰余金の減少2,440百万円、為替換算調整勘定の減少479百万円等であります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の72.2%から73.0%（前連結会計年度比0.8%増）となり、1株当たり純資産額は前連結会計年度末の2,192.83円から2,256.47円（前連結会計年度比63.64円の増加）となりました。

(3) 経営成績の分析

(売上高)

当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度に比べ8,708百万円減少し86,618百万円（前連結会計年度比9.1%減）となりました。地域別売上高及びセグメント別の売上高につきましては、「1 [業績等の概要] (1) 業績」に記載の通りです。

(営業費用、営業損益)

営業損益は、1,712百万円の利益（前連結会計年度比74.1%減）となりました。

(営業外損益、経常損益)

営業外損益は、前期に一過性の営業外収益として受取遅延損害金242百万円の計上があったことなどにより当期は収支が悪化し、当期の経常利益は1,430百万円（前連結会計年度比78.0%減）となりました。

(特別損益、親会社株主に帰属する当期純損益)

税金等調整前当期純損益は、特別損益で、固定資産の減損損失として、前期に182百万円を計上しましたが当期は553百万円を計上しており、税金等調整前当期純損益は、824百万円の利益（前連結会計年度比86.9%減）となりました。

親会社株主に帰属する当期純損益は、前期は米国販売子会社における繰延税金資産計上による税負担の軽減がございましたが、当期はこのような事象はなく657百万円の利益（前連結会計年度比89.9%減）となりました。

(4) 流動性及び資金の源泉

「1 [業績等の概要] (2) キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因

「4 [事業等のリスク]」をご参照ください。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度は、新規事業展開を目的とした設備投資を実施しております。

当連結会計年度の設備投資総額は1,454百万円であり、セグメントごとの設備投資について示すと次の通りであります。

(1) 日本

当連結会計年度の主な設備投資は、建物及び構築物、機械及び装置、工具、器具及び備品の取得を中心とする総額956百万円となっております。

なお、重要な設備の除却及び売却はありません。

(2) 北米

当連結会計年度の主な設備投資は、建物及び構築物、工具、器具及び備品の取得を中心とする総額23百万円となっております。

なお、重要な設備の除却及び売却はありません。

(3) 欧州

当連結会計年度の主な設備投資は、機械及び装置、工具、器具及び備品の取得を中心とする総額340百万円となっております。

なお、重要な設備の除却及び売却はありません。

(4) その他

当連結会計年度の主な設備投資は、機械及び装置、工具、器具及び備品の取得を中心とする総額134百万円となっております。

なお、重要な設備の除却及び売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成29年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	リース資産	その他	合計	
本社 (東京都墨田区)	日本	その他 設備	929	8	1,770 (5)	124	55	2,889	338
大阪支社 (大阪市城東区)	日本	その他 設備	265	0	229 (1)		6	501	48
つくばプラント (茨城県つくば市)	日本	印刷機械 製造設備	6,936	2,002	11,659 (164) [34]	106	249	20,955	587

- (注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定の金額を含んでおりません。
 2 現在休止中の主要な設備はありません。
 3 上記中の〔外書〕は賃借している土地の面積で、年間賃借料はつくば工場29百万円であります。
 4 上記の他連結会社以外からの主要な賃借設備はありません。
 5 帳簿価額「その他」は主に工具、器具及び備品であります。

(2) 国内子会社

平成29年3月31日現在

会社名 (所在地)	セグメントの名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	リース資産	その他	合計	
㈱小森マシナリー (山形県高畠町)	日本	印刷機械 製造設備	387	962	698 (100)	41	68	2,158	340
㈱小森エンジニアリ ング (茨城県牛久市)	日本	その他 設備	3		()	6	0	10	40
㈱セリアコーポレー ション(東京都北 区)他日本地域製造 会社	日本	その他 設備	555	89	969 (39)	39	17	1,670	239

- (注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定の金額を含んでおりません。
 2 現在休止中の主要な設備はありません。
 3 上記の他連結会社以外からの主要な賃借設備はありません。
 4 帳簿価額「その他」は主に工具、器具及び備品であります。

(3) 在外子会社

平成29年3月31日現在

会社名 (所在地)	セグメントの名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	リース資産	その他		合計
コモリアメリカコーポレーション他 アメリカ地域販売会社	北米	その他 設備	106	6	51 (14)		28	191	97
コモリインターナショナルヨーロッパ ピー・ヴィ. 他欧州地域販売会社	欧州	その他 設備	349	438	202 (14)		73	1,064	139
コモリシャンボン エス.エイ.エス. (フランス オルレア ン市)	欧州	印刷機械 製造設備	5	8	0 (15) [6]		61	75	75
小森香港有限公司 (中国香港特別行政 区)	その他	その他 設備	6	2	()		4	13	54
小森機械(南通)有 限公司 (中国南通市)	その他	印刷機械 関連製造 設備	289	165	175 (30)	3	41	675	71
台湾小森股份有限公 司 (台湾台北市)	その他	その他 設備			()		0	0	12
コモリ サウスイース ト アジア プライ ベート リミテッド (シンガポール)	その他	その他 設備	78	1	()		0	79	16

- (注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定の金額を含んでおりません。
2 現在休止中の主要な設備はありません。
3 上記中の [外書] は賃借している土地の面積で、年間賃借料は4百万円であります。
4 上記の他連結会社以外からの主要な賃借設備はありません。
5 帳簿価額「その他」は主に工具、器具及び備品であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備計画は、原則的にグループ各会社が個別に策定しておりますが、グループ全体で重複しないように提出会社において調整をはかっております。

当連結会計年度末現在における今後1年間の設備の新設、改修等にかかる設備投資予定金額は、2,097百万円であります。当社グループはその所要資金のすべてを自己資金で充当する予定であります。

(1) 重要な設備の新設等

(単位：百万円)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備等の 主な内容・目的	平成29年3月末時点 での計画金額
提出会社	つくばプラント (茨城県つくば市)	日本	既存工作機械の更新及 び改造、工具器具の更 新及び合理化他	1,092
提出会社	本社 (東京都墨田区)	日本	空調設備更新工事	261
(株)小森マシナリー	本社工場 (山形県高畠町)	日本	既存工作機械の更新及 び改造、工具器具の更 新及び合理化他	297

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

特記すべき事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	295,500,000
計	295,500,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成29年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年6月21日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	62,292,340	62,292,340	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株
計	62,292,340	62,292,340		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年7月29日(注)	6,000,000	62,292,340		37,714		37,797

(注) 利益剰余金による自己株式の消却による減少であります。

(6) 【所有者別状況】

平成29年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		35	24	174	166	2	3,120	3,521	-
所有株式数(単元)		178,210	7,761	72,580	168,445	24	195,590	622,610	31,340
所有株式数の割合(%)		28.62	1.25	11.66	27.05	0.00	31.41	100.00	-

(注) 自己株式が「個人その他」の欄に40,658単元、「単元未満株式の状況」の欄に93株(実保有高)含まれておりません。

(7) 【大株主の状況】

平成29年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	4,025	6.46
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー(常任代理人株式会社みずほ銀行決済営業部)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都港区港南2丁目15-1)	2,428	3.90
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	2,251	3.61
有限会社コモリエステート	東京都港区赤坂4丁目14-14	2,090	3.36
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1-1	1,895	3.04
小森紀子	東京都渋谷区	1,867	3.00
小森善磨	東京都大田区	1,866	3.00
小森コーポレーション取引先持株会	東京都墨田区吾妻橋3丁目11-1	1,495	2.40
小森善治	東京都港区	1,032	1.66
住友生命保険相互会社	東京都中央区築地7丁目18-24	1,030	1.65
計		19,981	32.08

(注) 1.上記のほか株主名簿上当社名義となっている自己株式が4,065千株あり、発行済株式総数に対する所有株式数の割合は6.53%であります。

2. 平成28年7月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書（変更報告書）において、NOMURA INTERNATIONAL PLC及び野村アセットマネジメント株式会社が平成28年7月15日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は次の通りであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
NOMURA INTERNATIONAL PLC	1 Angel Lane, London EC4R 3AB, United Kingdom	69	0.10
野村アセットマネジメント株式会社	東京都中央区日本橋1丁目12-1	2,927	4.29
計		2,997	4.39

3. 平成28年10月31日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書（変更報告書）において、株式会社三菱東京UFJ銀行及びその共同保有者である三菱UFJ信託銀行株式会社及び三菱UFJ国際投信株式会社及び三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社が平成28年10月24日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は次の通りであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
三菱東京UFJ銀行株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	462	0.74
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4-5	3,380	5.43
三菱UFJ国際投信株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目12-1	119	0.19
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目5-2	281	0.45
計		4,244	6.81

4. 平成29年1月20日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書（変更報告書）において、株式会社みずほ銀行及びその共同保有者であるみずほ信託銀行株式会社及びアセットマネジメントOne株式会社が平成29年1月13日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は次の通りであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5-5	1,000	1.61
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲1丁目2-1	200	0.32
アセットマネジメントOne株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目8-2	1,926	3.09
計		3,126	5.02

5. 平成29年3月3日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書（変更報告書）において、ブランドス・インベストメント・パートナーズ・エル・ピーが平成29年2月28日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は次の通りであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
ブランドス・インベストメント・ パートナーズ・エル・ピー	11988 El Camino Real, San Diego, CA, U.S.A.	4,845	7.78
計		4,845	7.78

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	
議決権制限株式（その他）	-	-	
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 4,065,800	-	
完全議決権株式（その他）	普通株式 58,195,200	581,952	
単元未満株式	普通株式 31,340	-	
発行済株式総数	62,292,340	-	
総株主の議決権	-	581,952	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式93株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
（自己保有株式） 株小森コーポレーション	東京都墨田区吾妻橋 3丁目11番1号	4,065,800	-	4,065,800	6.53
計		4,065,800	-	4,065,800	6.53

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成28年7月1日)での決議状況 (取得期間 平成28年7月4日~平成28年12月22日)	3,800,000	5,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	3,736,500	4,999,957,200
残存決議株式の総数及び価額の総額	63,500	42,800
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	1.7	0.0
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	1.7	0.0

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	876	1,257,821
当期間における取得自己株式	19	29,526

(注) 当期間における取得自己株式には、平成29年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取請求による買取りを反映させておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式	6,000,000	4,901,820,000		
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	4,065,893		4,065,912	

(注) 当該株式には、平成29年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取請求による買取り及び買増請求による売却を反映させておりません。

3 【配当政策】

当社は、長期的展望に立ち、経営基盤の充実と将来の事業拡大のための内部留保の確保を念頭に置きながら、株主の皆様に対し安定かつ充実した利益還元を継続的にを行うことを最重要課題の一つと認識しております。なお、当社は、会社法第454条第5項の規定に基づき、中間配当をすることができる旨を定款で定めており、剰余金の配当は中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の配当につきましては、当期の経営成績等を総合的に勘案した上で、中間配当20円、期末配当20円、1株当たり合計40円の配当を実施いたしました。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下の通りであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成28年10月31日 取締役会決議	1,200	20.00
平成29年6月20日 定時株主総会決議	1,164	20.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
最高(円)	1,041	1,848	1,675	1,795	1,589
最低(円)	354	942	1,004	1,127	1,066

(注) 株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成28年10月	11月	12月	平成29年1月	2月	3月
最高(円)	1,384	1,500	1,589	1,574	1,563	1,576
最低(円)	1,265	1,290	1,467	1,427	1,461	1,423

(注) 株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性12名 女性1名 (役員のうち女性の比率8%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長兼 最高経営 責任者 (CEO)		小森善治	昭和14年6月27日生	昭和37年4月 当社入社 昭和39年1月 営業部係長 昭和42年6月 取締役(営業担当) 昭和54年8月 常務取締役(営業担当) 昭和58年9月 常務取締役営業本部長 昭和62年8月 専務取締役営業本部長 平成3年4月 専務取締役生産本部長 平成5年4月 代表取締役社長 平成18年7月 代表取締役社長兼最高経営責任者 (CEO) 平成21年6月 代表取締役会長兼社長兼最高経営責任者 (CEO) 平成26年6月 代表取締役会長兼最高経営責任者 (CEO) 平成27年5月 代表取締役会長兼最高経営責任者 (CEO)兼株式会社セリアコーポレーション会長(現任)	(注)3	1,032

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)	
代表取締役社長兼最高執行責任者(COO)		持田 訓	昭和25年8月7日生	昭和50年4月	当社入社	(注)3	32
				平成6年3月	経営管理副室長兼秘書室長兼海外営業本部長		
				平成7年6月	取締役経営管理副室長兼秘書室長兼海外営業本部長		
				平成8年3月	取締役生産本部長		
				平成9年3月	取締役経営管理副室長兼生産本部長		
				平成10年3月	取締役社長室長兼本社営業本部長		
				平成10年6月	常務取締役社長室長兼本社営業本部長		
				平成11年3月	常務取締役社長室長兼営業統括本部副本部長兼本社営業本部長		
				平成12年4月	常務取締役営業統括本部長兼本社営業本部長		
				平成13年7月	常務取締役営業統括本部長兼本社営業本部長兼海外営業本部長		
				平成14年1月	常務取締役営業統括本部長兼海外営業本部長		
				平成15年3月	常務取締役営業統括本部長兼海外営業本部長兼輸出三部長		
				平成16年3月	常務取締役営業統括本部長兼海外営業本部長		
				平成17年3月	常務取締役経営企画室長		
				平成18年7月	常務取締役兼常務執行役員経営企画室長		
				平成18年11月	代表取締役専務兼最高執行責任者(COO)経営企画室長		
				平成19年6月	代表取締役専務兼最高執行責任者(COO)		
				平成21年1月	代表取締役専務兼最高執行責任者(COO)経営企画室長		
				平成23年6月	代表取締役兼最高執行責任者(COO)兼専務執行役員 経営企画室長		
				平成24年2月	代表取締役兼最高執行責任者(COO)兼専務執行役員 経営企画室長兼CSR推進室長		
平成25年4月	代表取締役副社長兼最高執行責任者(COO)経営企画室長						
平成26年6月	代表取締役社長兼最高執行責任者(COO)兼経営企画室長兼CSR推進室長						
平成27年3月	代表取締役社長兼最高執行責任者(COO)兼経営企画室長兼東海ホールディングス株式会社(現株式会社セリアコーポレーション)社長						
平成28年3月	代表取締役社長兼最高執行責任者(COO)兼つくばプラント長兼株式会社セリアコーポレーション社長						
平成29年6月	代表取締役社長兼最高執行責任者(COO)兼株式会社セリアコーポレーション社長(現任)						

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役兼常務執行役員	営業統括本部長兼PESP事業推進プロジェクトリーダー	斎藤一徳	昭和30年3月21日生	昭和55年11月 当社入社 平成16年3月 生産統括本部関宿事業部関宿設計部長 平成17年3月 技術本部副本部長 平成18年3月 技術本部長 平成18年7月 執行役員技術本部長 平成21年6月 取締役兼執行役員技術本部長 平成21年9月 取締役兼執行役員つくば副プラント長兼小森グラフィックテクノロジーセンター管掌 平成22年10月 取締役兼執行役員つくばプラント長兼小森グラフィックテクノロジーセンター管掌 平成24年6月 取締役兼常務執行役員つくばプラント長兼小森グラフィックテクノロジーセンター管掌兼知覚品質保証部長 平成25年3月 取締役兼常務執行役員つくばプラント長兼小森グラフィックテクノロジーセンター管掌 平成26年4月 取締役兼常務執行役員つくばプラント長兼小森グラフィックテクノロジーセンター管掌兼㈱小森マシナリー出向(代表取締役) 平成27年10月 取締役兼常務執行役員つくばプラント長兼DPS技術生産本部長兼小森グラフィックテクノロジーセンター管掌 平成28年3月 取締役兼常務執行役員営業統括本部長兼DPS営業推進本部長兼PESP事業推進プロジェクトリーダー 平成29年2月 取締役兼常務執行役員営業統括本部長兼PESP事業推進プロジェクトリーダー(現任)	(注)3	2
取締役兼執行役員	経営企画室長兼事業成長戦略推進プロジェクトリーダー	梶田英治	昭和40年9月7日生	昭和63年4月 野村證券(株)入社 平成20年4月 同社大阪資本市場部長 平成21年4月 当社入社 海外営業本部輸出2部長 平成22年1月 コモリ インターナショナル ヨーロッパ ビー.ヴィ.出向(社長) 平成24年4月 執行役員 コモリ インターナショナル ヨーロッパ ビー.ヴィ.出向(社長) 平成24年9月 執行役員経営企画室副室長 平成25年4月 執行役員営業統括本部長 平成25年6月 取締役兼執行役員 営業統括本部長 平成27年10月 取締役兼執行役員 営業統括本部長兼DPS営業推進本部長 平成28年3月 取締役兼執行役員 経営企画室長兼事業成長戦略推進プロジェクトリーダー 平成28年9月 取締役兼執行役員 経営企画室長兼事業成長戦略推進プロジェクトリーダー兼KCM社長(現任)	(注)3	4

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役兼執行役員	管理本部長兼KNT事業推進プロジェクトリーダー	松野浩一	昭和35年9月7日生	昭和60年4月 当社入社 平成16年3月 管理部管理課課長 平成16年11月 取手工場工場長室室長 平成17年3月 取手工場工場長兼つくば工場工場長 平成18年3月 つくば工場工場長 平成23年2月 つくばプラント副プラント長兼海外生産推進室室長 平成24年2月 つくばプラント副プラント長兼つくば工場工場長 平成24年4月 執行役員つくばプラント副プラント長兼つくば工場工場長 平成26年4月 執行役員管理本部本部長 平成26年6月 取締役兼執行役員管理本部本部長 平成28年3月 取締役兼執行役員管理本部本部長兼KNT事業推進プロジェクトリーダー 平成28年6月 取締役兼執行役員管理人事本部本部長兼KNT事業推進プロジェクトリーダー 平成29年2月 取締役兼執行役員管理本部本部長兼KNT事業推進プロジェクトリーダー(現任)	(注)3	1
取締役兼執行役員	人事総務本部長	横山雅文	昭和28年11月8日生	昭和52年4月 久保田鉄工(株)(現株クボタ)入社 平成12年6月 同社環境企画部長 平成15年6月 同社環境エンジニアリング事業本部統括部長 平成18年4月 同社環境事業開発部長 平成19年4月 同社膜ソリューション事業ユニット長兼クボタメンブレン(株)社長 平成21年4月 同社空調事業部長兼クボタ空調(株)社長 平成24年4月 同社空調事業ユニット長兼クボタ空調(株)社長 平成25年4月 同社電装機器事業部理事 平成25年6月 当社常勤監査役 平成28年6月 取締役兼執行役員管理人事本部副本部長(総務人事担当) 平成29年2月 取締役兼執行役員人事総務本部本部長(現任)	(注)3	-
取締役兼執行役員	つくばプラント長兼技術統括部長	船橋勇雄	昭和35年12月4日生	昭和58年4月 当社入社 平成10年3月 枚葉設計部設計1課長 平成16年3月 小森マシナリー出向副工場長兼枚葉設計部付 平成18年3月 つくば設計部長 平成23年2月 設計部付シニアプロジェクトマネージャー 平成24年2月 技術統括部付首席技師 平成26年4月 技術統括部長兼DPS開発部長 平成27年4月 執行役員技術統括部長 平成29年2月 執行役員つくば副プラント長兼技術統括部長 平成29年6月 取締役兼執行役員つくばプラント長兼技術統括部長(現任)	(注)3	1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役		吉川正光	昭和23年2月28日生	昭和46年4月 平成12年7月 平成14年7月 平成15年4月 平成17年4月 平成23年3月 平成23年6月	大蔵省印刷局入局 本局製造部技術課長 本局総務部総務課長 独立行政法人国立印刷局セキュリティー製品事業部長 同局理事 同局退任 当社社外取締役(現任)	(注)3	-
取締役		亀山晴信	昭和34年5月15日生	平成4年4月 平成9年4月 平成17年6月 平成19年6月 平成22年4月 平成24年10月 平成25年6月 平成25年6月 平成25年10月	弁護士登録 亀山晴信法律事務所(現 亀山総合法律事務所)開設 一般財団法人共立国際交流奨学財団監事(現任) 当社非常勤社外監査役 東京簡易裁判所民事調停委員(現任) 株式会社東光高岳社外取締役(現任) 当社非常勤社外監査役退任 当社社外取締役(現任) ソマール株式会社社外監査役(現任)	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役 (常勤)		朝倉祐治	昭和30年3月11日生	平成3年5月 平成7年3月 平成13年4月 平成14年4月 平成15年1月 平成16年1月 平成18年3月 平成19年6月 平成22年2月 平成25年4月 平成26年6月	当社入社 企画管理部業務課課長 企画管理部部長代行兼企画管理部営業業務課長 (株)千代田マシナリー出向(取締役社長室長) 企画管理部部長代行 企画管理部部長 財務部部長 内部監査室室長 財務部部長兼財務部与信管理課課長 管理本部副本部長 常勤監査役(現任)	(注)4	1
監査役 (常勤)		尼子晋二	昭和31年4月21日生	昭和54年4月 平成10年4月 平成14年10月 平成17年7月 平成21年4月 平成22年4月 平成24年4月 平成25年4月 平成28年6月	久保田鉄工(株)(現株クボタ)入社 同社枚方製造所鑄鋼製造部技術グループ長 同社鑄鋼営業部海外グループ長 同社鑄鋼営業部長 同社理事 同社素形材営業部長 同社素形材事業ユニット長 クボタマテリアルズカナダCorp.社長 当社常勤監査役(現任)	(注)6	-
監査役 (非常勤)		坂本裕子	昭和29年7月30日生	昭和59年10月 平成9年7月 平成13年7月 平成19年7月 平成19年7月 平成22年7月 平成25年6月	監査法人中央会計事務所(最終名称みず監査法人)入所 同所社員就任 同所代表社員就任 監査法人A & Aパートナーズ入所 同所代表社員就任 同所代表社員制度廃止のため社員就任(現任) 当社非常勤監査役(現任)	(注)5	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役 (非常勤)		川端雅一	昭和28年7月4日生	昭和52年4月	株式会社富士銀行入行(現株式会社みずほ銀行)	(注)6	-
				平成11年5月	同社信託企画部長		
				平成14年4月	株式会社みずほホールディングス経営企画部長		
				平成15年3月	株式会社みずほフィナンシャルグループ経営企画部長		
				平成15年8月	株式会社みずほ銀行新宿支店長		
				平成17年4月	同社執行役員新宿支店長		
				平成18年4月	同社常務執行役員		
				平成21年5月	みずほ総合研究所株式会社代表取締役副社長		
				平成24年1月	みずほキャピタル株式会社代表取締役社長		
				平成28年4月	同社特別顧問(現任)		
				平成28年6月	芙蓉オートリース株式会社社外取締役(非常勤)(現任)		
平成28年6月	当社非常勤監査役(現任)						
平成28年6月	トピー工業株式会社社外監査役(非常勤)(現任)						
計							1,075

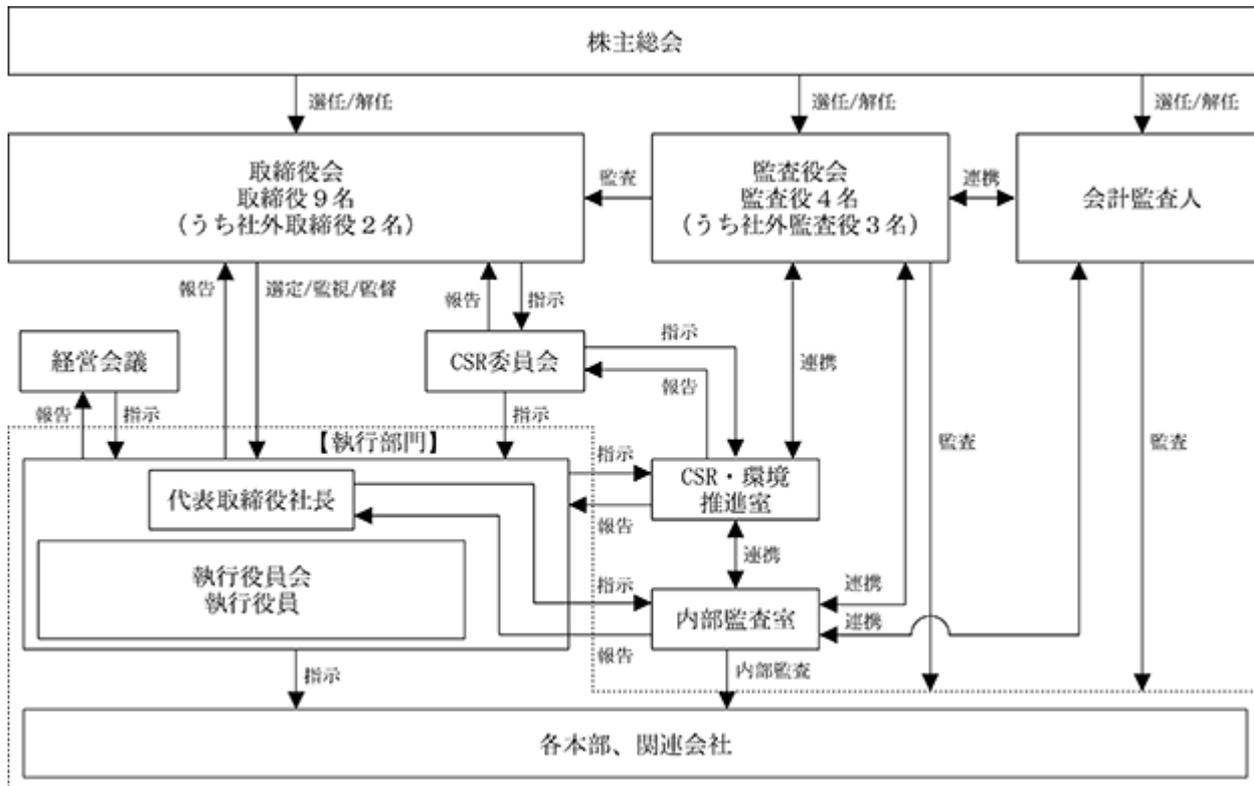
- (注) 1 取締役吉川正光、亀山晴信の2氏は、社外取締役であります。
2 監査役尼子晋二、坂本裕子、川端雅一の3氏は、社外監査役であります。
3 取締役の任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4 監査役朝倉祐治の任期は、平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5 監査役坂本裕子の任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成33年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
6 監査役尼子晋二、川端雅一の2氏の任期は、平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

当社における、企業統治の体制は以下の通りであります。



当社は、株主の皆様やお客様をはじめ、取引先、地域社会、従業員とその家族などすべてのステークホルダーの期待に応え、責任を果たし、企業価値を最大化することが経営の最重要課題の一つであると認識しております。そして、その実現のためには、コーポレート・ガバナンスの確立が不可欠であると考え、監査役会設置会社方式を採用しております。

当社では、「経営の透明性の確保」、「経営の意思決定の迅速化」、「コンプライアンスの確保」並びに「経営のチェック機能の強化」を図ることを、コーポレート・ガバナンスの基本としております。この基本に従って経営の監視を含む諸問題に関して、コーポレート・ガバナンスが十分機能するよう取り組んでおります。このため、毎年取締役会で内部統制システムの基本方針を決議し、この方針に基づき内部統制システムの構築と運用を行っております。また、その構築及び運用状況の評価はCSR・環境推進室が担当し毎年実施のうえ、結果を取締役会で報告しております。

平成29年6月21日現在、取締役会は9名の取締役（うち社外取締役は2名）からなり、取締役会を原則毎月1回開催し、経営の意思決定機関として法定事項及び経営の基本方針並びにその他重要事項を決定すると共に、取締役の業務執行を監督しております。また、執行役員会は18名からなり、取締役会で決定された経営方針等を周知し会社業績の達成と企業価値向上に向けて業務執行を確実なものとし、監査役会は、社外監査役3名を含む4名で構成されています。監査役は、取締役会その他重要な会議に出席し必要に応じて意見を述べる等、取締役の業務執行を監査しております。

経営の意思決定の迅速化を図るため、経営企画、生産及び開発、営業、管理各本部担当役員をメンバーとし、監査役をオブザーバーとする社長主催の「経営会議」において、重要な経営課題や中期経営計画について方針を決定しております。さらに、この方針を周知徹底するため、各本部の担当役員、部長で構成する「会社方針周知徹底会議」を原則毎月開催し、それぞれの業務課題の審議と共に、業務の執行状況を確認しております。

内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況
内部統制システムの基本方針の概要は次の通りであります。

1. 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - ・業務執行を全体として適正に行い、実効性ある内部統制システムの構築と法令定款遵守の体制の確立を図る。このため、「コンプライアンス規程」、「グループ企業行動憲章」及び「グループ社員行動基準」を定め、取締役の率先垂範と役員への周知徹底を図る。
 - ・内部通報制度により、違法行為や倫理違反等不祥事の未然防止に努める。
 - ・CSR・環境推進室長をコンプライアンス体制に関する責任者とし、CSR・環境推進室が体制の構築、維持、周知徹底のための教育活動を行う。
 - ・内部監査室は、独立的モニタリング部門として、財務報告に係る内部統制も含めた業務全般に関し、管理・運営の制度及び業務執行状況を評価する。
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - ・取締役会議事録、稟議決裁書その他取締役の職務に関わる情報を、取締役及び監査役の閲覧に供する形で適切に保存し、管理する。
3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - ・全社的な観点からリスクを捉え、評価し、対応する。このため、CSR・環境推進室長をリスクマネジメントの責任者とし、CSR・環境推進室をその事務局とする。
 - ・「リスクマネジメント規程」及び「リスクマネジメント運営要領」を整備し、リスクごとに担当する役員を定め、平常時はリスクの発現抑制や影響の低減を行い、緊急時は緊急対策本部で対応する。
 - ・地震等大規模な自然災害が発生した場合の行動基準を定めた地震対策マニュアルを策定する等体制を整備し、早期復旧と事業継続の対応を図る。
4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - ・取締役会における意思決定の迅速化と監督機能の強化を図るため、執行役員制度を導入している。
 - ・取締役会、経営会議及び執行役員会等の会議体並びにこれらの規程を整備し、各会議の効率的な運用を図る。
 - ・取締役、執行役員及び従業員が共有する全社的な中期経営計画を定め、この浸透を図り、取締役から業務執行を委ねられた執行役員は計画目標の達成に向け年度目標を設定し、職務の執行を効率的に実施する。
5. 従業員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - ・経営理念を通して企業の社会的責任を推進する体制・制度等を構築するため、CSR・環境推進室長が主管となり代表取締役社長のもとに取締役及び執行役員で構成するCSR委員会を設置している。この委員会は、内部統制システム、リスクマネジメント、コンプライアンス、内部通報制度、環境関連事項等を審議し、決定事項は各部門内に周知徹底する。
6. 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
 - ・「子会社管理規程」を整備し、リスクを考慮した親会社承認事項と報告事項を定める等、子会社経営の自立性確保と業務の効率化を図る。
 - ・子会社主管部門は、当社の経営理念、「グループ企業行動憲章」、方針を浸透させるとともに、「子会社管理規程」に基づき指導・助言を行い、リスクマネジメントを行う。
 - ・CSR・環境推進室は、グループのコンプライアンス体制の責任者として体制の構築、維持、教育活動に当たり、内部監査室は、グループ会社の監査を行い、結果を代表取締役社長に報告する。
7. 監査役の職務を補助すべき従業員に関する体制、当該従業員の取締役からの独立性に関する事項及び当該従業員に対する指示の実効性の確保に関する事項
 - ・監査役が必要とした場合、監査役の職務を補助する従業員を置く。当該従業員の任命、異動、評価について、取締役からの独立性を確保する。
8. 取締役及び従業員が監査役に報告するための体制、子会社の取締役、監査役及び従業員又はこれらの者から報告を受けた者が監査役に報告するための体制並びにその他の監査役への報告に関する体制
 - ・当社及び子会社の取締役及び従業員は、重大な法令・定款違反、不正行為又は著しい損害を及ぼすおそれのある事実を知ったときは、遅滞なく監査役に報告する。
 - ・社長決裁を要する重要な意思決定事項は監査役に回覧し、取締役会の決議事項に関する情報は監査役に事前に通知する。
 - ・取締役及び従業員は、監査役の要請により必要な報告を行う。この報告者は報告を理由として不利な扱いを受けない。
9. 監査役が職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生じる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
 - ・監査役が職務執行に必要な費用は当社が負担する。
10. その他監査役が監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ・代表取締役は、監査役と会合をもち、意思の疎通を図る。
- ・内部監査室及び会計監査人は、監査結果について監査役へ報告する。
- ・監査役は重要な会議に出席して意見を述べることができる。

内部監査及び監査役監査

内部監査については、社長直属組織である内部監査室4名により、グループ全体の業務執行が適正かつ効率的に行われているかを監査しております。

監査役は、取締役の職務の執行に対し、監査役会の定めた監査役監査基準に基づき監査をしております。

監査役は、内部監査室と定期的会合に加え必要に応じ会合を持ち、それぞれの監査計画の重複を避けると同時に、情報の共有化を図っております。また、実施した監査結果に基づき業務執行部門の執行状況を検証・確認し、フォローアップ・改善等についても意見交換を行っております。

さらに、監査役は会計監査人と日常的に緊密な連携を図り、随時、監査に関する報告を受けるとともに、内部統制監査を含む監査計画の概要につき意見交換を行い、重要な監査事項につき共有化を図っております。また、監査結果についても、期末監査、四半期レビュー、内部統制監査等適時報告を受け、意見交換を行うと同時に、適宜会計監査人の拠点監査、実地棚卸に同行し、監査の効率化や品質の向上に努めております。

社外取締役及び社外監査役

(1) 当社は平成29年6月21日現在社外取締役を2名選任しております。社外取締役に期待される役割としては、外部的視点からの取締役の業務執行に対する監督機能等であります。

(2) 社外取締役吉川正光氏は、当社製品の販売先である独立行政法人国立印刷局の出身です。独立行政法人国立印刷局と当社との間には、年間1,819百万円(平成29年3月期実績)の取引が存在しております。

なお、当社と当社の社外取締役亀山晴信氏との間に特別な利害関係はありません。

(3) 平成29年6月21日現在当社の監査役会は4名で構成されており、うち社内監査役1名、社外監査役3名であります。各監査役は取締役会に出席するとともに、その他の経営に係る重要な会議への出席、部門監査の実施、重要書類の閲覧及び取締役との協議により、会社の基本方針、経営計画、重要事項の決定及び業務執行状況の監査機能を十分発揮できる体制を整えております。

(4) 社外監査役川端雅一氏は、当社の取引先のみずほ銀行の出身であります。

なお、当社と当社の社外監査役尼子晋二氏及び坂本裕子氏との間に特別な利害関係はありません。

(5) 当社は、社外取締役及び社外監査役の選任にあたり独立性を判断する基準として、「社外役員独立性基準」を制定しております。その主な内容は次の通りであります。

1. 過去10年間のいずれかの事業年度において、小森グループの取締役・監査役・執行役員または使用人であったことがないこと

但し、社外取締役及び社外監査役は除く

2. 過去5年間のいずれかの事業年度において、小森グループの大株主もしくは小森グループが大株主の取締役・監査役・執行役員または使用人であったことがないこと

3. 小森グループの主要な取引先の取締役・監査役・執行役員または使用人でないこと

4. 小森グループから多額の寄付金を受けている法人・団体等の理事その他取締役・監査役・執行役員または使用人でないこと

5. 小森グループとの間で、相互に役員を派遣している法人・団体等の取締役・監査役・執行役員でないこと

6. 過去5年間のいずれかの事業年度において、小森グループの会計監査人の代表社員、社員、パートナーまたは使用人であったことがないこと

7. 小森グループから役員報酬以外に、多額の金銭その他財産を得ている弁護士、公認会計士、コンサルタント等でないこと

8. 以下に該当する者の配偶者、二親等内の親族、同居の親族または生計を一にする者でないこと

(1) 小森グループの取締役・監査役・執行役員または重要な使用人

(2) 過去5年間のいずれかの事業年度において、小森グループの取締役・監査役・執行役員または重要な使用人であった者

(3) 上記2. から7. で就任を制限している対象者

9. その他、社外役員としての職務を遂行する上で独立性に疑いがなくないこと

(6) 取締役吉川正光、亀山晴信氏及び監査役尼子晋二氏、坂本裕子氏、川端雅一氏は、前記「社外役員独立性基準」を満たしており、この5氏につきまして、東京証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。

役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	190	165		25		6
監査役 (社外監査役を除く)	20	20				1
社外役員	54	54				7

- (注) 1. 上記は役員区分ごとの対象となる役員の員数及び報酬等の総額であり、報酬等の総額は基本報酬241百万円、賞与25百万円によるものであります。
2. 当事業年度末日における在籍人数は、取締役8名、監査役4名であります。上記報酬額には、平成28年6月21日付をもって退任した監査役2名を含んでおります。
3. 取締役の報酬の株主総会の決議(平成12年6月29日付)による限度額(使用人兼務役員の使用人分の報酬を除く)は、年額240百万円であります。また、監査役の報酬の株主総会の決議(平成20年6月24日付)による限度額は、年額90百万円であります。
4. 平成20年6月24日開催の第62回定時株主総会決議に基づく、役員退職慰労金制度廃止に伴う打切り支給額の未払残高が、取締役2名に対し285百万円あります。

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

当社は役員の報酬等の額の決定に関する方針を概ね以下の通り定めております。

取締役の報酬については、企業価値の向上に向けた報酬体系に相応しいものとするべく、説明責任や業績連動性を考慮したものとするため、月例報酬と業績連動賞与から構成されております。固定報酬である月例報酬の総額は、株主総会で承認された報酬枠の範囲内としており、業績連動賞与の比率は、標準的業績の場合、報酬全体の約3分の1としております。業績連動の指標としては、連結営業利益の達成度に応じるものとし、具体的な支給総額は、事業年度終了後に株主総会に諮ることとしております。各取締役の報酬額は取締役会の決議により決定されます。なお、当社は役員退職慰労金制度を廃止しており、ストックオプション等は該当ありません。

監査役の報酬については、その職務に鑑み、基本報酬である月例報酬のみとし、月例報酬の総額は株主総会で承認された報酬枠の範囲内とします。各監査役の基本報酬額は監査役の協議により決定しております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 46銘柄
貸借対照表計上額の合計額 10,576百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
朝日印刷(株)	644,140	1,404	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
(株)SCREENホールディングス	890,674	792	当社購入先との取引関係の維持・発展目的
凸版印刷(株)	748,805	706	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
大日本印刷(株)	615,646	615	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
共立印刷(株)	2,062,400	591	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
日本写真印刷(株)	296,620	488	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
(株)奥村組	767,000	456	当社建築等の請負先との取引関係の維持・発展目的
大日精化工業(株)	920,000	414	当社販売代理店との取引関係の維持・発展目的
(株)みずほフィナンシャルグループ	2,435,697	409	当社取引銀行との取引関係の維持・発展目的
東洋インキSCホールディングス(株)	636,000	286	当社購入先との取引関係の維持・発展目的
(株)牧野フライス製作所	296,000	203	当社購入先との取引関係の維持・発展目的
コニカミノルタ(株)	200,000	191	当社との取引関係の維持・発展目的
(株)ほくほくフィナンシャルグループ	1,201,739	177	当社取引銀行との取引関係の維持・発展目的
共同印刷(株)	485,310	164	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
京セラ(株)	30,600	151	当社との取引関係の維持・発展目的
宝印刷(株)	109,055	144	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
総合商研(株)	140,000	114	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
(株)三菱UFJフィナンシャルグループ	192,000	100	当社取引銀行との取引関係の維持・発展目的
(株)常陽銀行	203,060	78	当社取引銀行との取引関係の維持・発展目的
ト・イン(株)	101,450	45	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
竹田印刷(株)	58,100	29	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
三浦印刷(株)	252,214	27	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
(株)廣濟堂	78,290	25	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
サンメッセ(株)	50,000	19	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
セキ(株)	10,000	14	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
東洋電機製造(株)	34,500	13	当社購入先との取引関係の維持・発展目的
カーディナル(株)	10,000	5	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
大王製紙(株)	5,000	4	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
古林紙工(株)	28,720	4	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
(株)平賀	10,000	2	当社顧客との取引関係の維持・発展目的

(当事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
朝日印刷(株)	646,691	1,742	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
(株)SCREENホールディングス	178,134	1,458	当社購入先との取引関係の維持・発展目的
凸版印刷(株)	764,705	867	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
日本写真印刷(株)	296,620	782	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
大日本印刷(株)	615,646	738	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
共立印刷(株)	2,065,465	693	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
大日精化工業(株)	920,000	692	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
(株)奥村組	767,000	518	当社建築等の請負先との取引関係の維持・発展目的
(株)みずほフィナンシャルグループ	2,435,697	496	当社取引銀行との取引関係の維持・発展目的
東洋インキSCホールディングス(株)	636,000	340	当社購入先との取引関係の維持・発展目的
(株)牧野フライス製作所	296,000	285	当社購入先との取引関係の維持・発展目的
(株)ほくほくフィナンシャルグループ	120,173	209	当社取引銀行との取引関係の維持・発展目的
コニカミノルタ(株)	200,000	199	当社との取引関係の維持・発展目的
京セラ(株)	30,600	189	当社との取引関係の維持・発展目的
共同印刷(株)	503,301	182	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
宝印刷(株)	109,055	181	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
グローリー(株)	37,200	135	当社購入先との取引関係の維持・発展目的
(株)三菱UFJフィナンシャルグループ	192,000	134	当社取引銀行との取引関係の維持・発展目的
総合商研(株)	140,000	117	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
(株)めぶきフィナンシャルグループ	237,580	105	当社取引銀行との取引関係の維持・発展目的
三浦印刷(株)	252,214	65	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
ト・イン(株)	104,673	49	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
竹田印刷(株)	58,100	32	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
(株)廣済堂	78,290	29	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
サンメッセ(株)	50,000	22	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
セキ(株)	10,000	13	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
東洋電機製造(株)	6,900	11	当社購入先との取引関係の維持・発展目的
大王製紙(株)	5,000	7	当社との取引関係の維持・発展目的
カーディナル(株)	10,000	6	当社顧客との取引関係の維持・発展目的
古林紙工(株)	28,720	5	当社顧客との取引関係の維持・発展目的

八 保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

会計監査の状況

1 業務を執行した公認会計士の氏名及び所属する監査法人名

柴 毅 (PwCあらた有限責任監査法人)
塩谷岳志 (PwCあらた有限責任監査法人)

2 監査業務に係る補助者の構成

PwCあらた有限責任監査法人	公認会計士	3名
	その他	5名

責任限定契約の内容の概要

当社定款に基づき、当社は社外取締役吉川正光氏及び亀山晴信氏、社外監査役尼子晋二氏及び坂本裕子氏及び川端雅一氏と会社法第423条第1項に定める損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該限定契約に基づく賠償責任限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額となります。

取締役の定数に関する規定

当社の取締役は12名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。また、取締役の選任については、累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

1 剰余金の配当等

当社は、経済情勢の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、剰余金の配当、自己株式の取得等会社法第459条第1項各号の事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず、取締役会の決議により定める旨を定款で定めております。

2 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会特別決議が必要な場合の定足数の確保をより確実にするため、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	69		63	
連結子会社	5		5	
合計	74		68	

(注) 当社の会計監査人はPwCあらた有限責任監査法人であります。

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

当社連結子会社の一部は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているプライスウォーターハウスクーパースのメンバーファームに対して、監査証明業務に基づく報酬の他、当社連結子会社の税務申告及び移転価格税制に係る報酬を支払っております。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当社連結子会社の一部は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているプライスウォーターハウスクーパースのメンバーファームに対して、監査証明業務に基づく報酬の他、当社連結子会社の税務申告及び移転価格税制に係る報酬を支払っております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、当社の規模・特性、予定される監査業務の日数、監査業務に係る人員数等を総合的に勘案し、監査公認会計士等と協議の上、監査役会の同意を得て決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により監査を受けております。

なお、従来、当社が監査証明を受けているPwCあらた監査法人は、監査法人の種類の変更により、平成28年7月1日をもってPwCあらた有限責任監査法人となりました。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、以下の通り連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、随時情報を入手するとともに、同財団法人の主催するセミナー等に適宜参加し、当社管理本部において内容を検討し、当社の会計方針等を策定しており、これらを、当社の財務情報開示委員会において確認することとしております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	50,034	40,712
受取手形及び売掛金	18,306	22,092
有価証券	18,821	18,696
商品及び製品	16,871	15,589
仕掛品	7,423	7,666
原材料及び貯蔵品	8,154	8,387
1年内満期保険積立金	629	538
繰延税金資産	5,454	4,795
その他	2,905	1,906
貸倒引当金	191	291
流動資産合計	128,409	120,094
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	31,958	31,775
減価償却累計額	20,339	20,950
建物及び構築物（純額）	11,619	10,825
機械装置及び運搬具	20,760	19,590
減価償却累計額	17,022	15,867
機械装置及び運搬具（純額）	3,738	3,723
土地	18,352	18,194
建設仮勘定	64	17
その他	7,561	7,078
減価償却累計額	6,512	6,076
その他（純額）	1,049	1,002
有形固定資産合計	34,824	33,762
無形固定資産	2,975	2,453
投資その他の資産		
投資有価証券	1 12,003	1 14,056
長期預金	500	-
繰延税金資産	1,098	1,543
保険積立金	5,945	6,040
退職給付に係る資産	1,123	1,000
その他	1,520	1,348
貸倒引当金	228	199
投資その他の資産合計	21,963	23,789
固定資産合計	59,764	60,005
資産合計	188,173	180,100

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,435	11,622
電子記録債務	6,395	6,022
短期借入金	40	48
未払法人税等	713	238
賞与引当金	1,053	1,034
製品保証引当金	979	859
債務保証損失引当金	415	325
役員賞与引当金	25	30
ポイント引当金	1	0
事業構造改善引当金	-	57
割賦利益繰延	50	46
設備関係支払手形	163	87
その他	14,055	12,895
流動負債合計	36,329	33,268
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	25	-
繰延税金負債	1,341	1,234
役員退職慰労引当金	12	26
ポイント引当金	0	0
環境対策引当金	10	10
訴訟損失引当金	250	110
退職給付に係る負債	3,657	3,350
その他	656	712
固定負債合計	15,954	15,445
負債合計	52,283	48,713
純資産の部		
株主資本		
資本金	37,714	37,714
資本剰余金	37,797	37,788
利益剰余金	65,669	58,985
自己株式	4,956	5,055
株主資本合計	136,225	129,432
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,664	4,469
為替換算調整勘定	380	860
退職給付に係る調整累計額	2,632	1,655
その他の包括利益累計額合計	348	1,953
非支配株主持分	14	-
純資産合計	135,890	131,386
負債純資産合計	188,173	180,100

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)
売上高	95,326	86,618
売上原価	62,564	59,139
割賦販売未実現利益戻入額	18	4
売上総利益	32,780	27,483
販売費及び一般管理費	1, 2 26,167	1, 2 25,771
営業利益	6,612	1,712
営業外収益		
受取遅延損害金	242	-
受取利息	118	78
受取配当金	198	236
受取賃貸料	83	91
その他	357	328
営業外収益合計	999	735
営業外費用		
支払利息	62	58
損害賠償金	291	245
為替差損	400	516
訴訟損失引当金繰入額	140	-
その他	210	198
営業外費用合計	1,104	1,018
経常利益	6,508	1,430
特別利益		
固定資産売却益	3 16	3 39
特別利益合計	16	39
特別損失		
固定資産売却損	4 21	4 19
固定資産除却損	5 27	5 14
減損損失	6 182	6 553
事業構造改善引当金繰入額	-	57
特別損失合計	230	644
税金等調整前当期純利益	6,293	824
法人税、住民税及び事業税	921	121
法人税等調整額	1,150	45
法人税等合計	228	166
当期純利益	6,522	658
非支配株主に帰属する当期純利益	0	0
親会社株主に帰属する当期純利益	6,522	657

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
当期純利益	6,522	658
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	783	1,805
為替換算調整勘定	785	479
退職給付に係る調整額	1,666	977
その他の包括利益合計	1, 2 3,234	1, 2 2,302
包括利益	3,287	2,960
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,288	2,961
非支配株主に係る包括利益	1	1

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	37,714	37,797	61,685	4,954	132,242
当期変動額					
剰余金の配当			2,478		2,478
親会社株主に帰属する当期純利益			6,522		6,522
自己株式の取得				1	1
連結範囲の変動			59		59
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
自己株式の消却					-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					-
当期変動額合計	-	-	3,984	1	3,982
当期末残高	37,714	37,797	65,669	4,956	136,225

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	3,447	404	966	2,886	-	135,128
当期変動額						
剰余金の配当						2,478
親会社株主に帰属する当期純利益						6,522
自己株式の取得						1
連結範囲の変動						59
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	783	785	1,666	3,234	14	3,220
自己株式の消却						-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						-
当期変動額合計	783	785	1,666	3,234	14	761
当期末残高	2,664	380	2,632	348	14	135,890

当連結会計年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	37,714	37,797	65,669	4,956	136,225
当期変動額					
剰余金の配当			2,440		2,440
親会社株主に帰属する当期純利益			657		657
自己株式の取得				5,001	5,001
連結範囲の変動					-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
自己株式の消却			4,901	4,901	-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		8			8
当期変動額合計	-	8	6,684	99	6,792
当期末残高	37,714	37,788	58,985	5,055	129,432

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	2,664	380	2,632	348	14	135,890
当期変動額						
剰余金の配当						2,440
親会社株主に帰属する当期純利益						657
自己株式の取得						5,001
連結範囲の変動						-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	1,805	479	977	2,302	14	2,288
自己株式の消却						-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						8
当期変動額合計	1,805	479	977	2,302	14	4,504
当期末残高	4,469	860	1,655	1,953	-	131,386

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	6,293	824
減価償却費	2,026	2,132
減損損失	182	553
のれん償却額	180	151
貸倒引当金の増減額（は減少）	143	75
賞与引当金の増減額（は減少）	51	19
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	233	157
受取利息及び受取配当金	317	315
支払利息	62	58
為替差損益（は益）	50	287
売上債権の増減額（は増加）	5,130	4,632
たな卸資産の増減額（は増加）	1,204	11
仕入債務の増減額（は減少）	865	1,297
前払費用の増減額（は増加）	312	338
未払消費税等の増減額（は減少）	136	248
その他	54	425
小計	12,729	1,001
利息及び配当金の受取額	319	319
利息の支払額	62	58
法人税等の支払額	1,051	53
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,935	793
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の純増減額（は増加）	759	2,984
定期預金の預入による支出	1,294	54
定期預金の払戻による収入	4,849	2,138
有形及び無形固定資産の取得による支出	2,797	1,518
有形及び無形固定資産の売却による収入	30	51
保険積立金の積立による支出	1,023	602
保険積立金の払戻による収入	937	599
投資有価証券の取得による支出	2,219	144
投資有価証券の売却による収入	22	498
長期前払費用の取得による支出	730	0
その他の支出	52	30
その他の収入	164	339
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,352	4,261

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	22
短期借入金の純増減額（は減少）	172	118
長期借入金の返済による支出	23	126
リース債務の返済による支出	101	197
自己株式の取得による支出	1	5,001
配当金の支払額	2,478	2,440
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,778	7,669
現金及び現金同等物に係る換算差額	375	284
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	7,428	4,487
現金及び現金同等物の期首残高	51,556	59,140
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額（は減少）	154	-
現金及び現金同等物の期末残高	1 59,140	1 54,652

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数・・・18社

主要な連結子会社の名称・・・(株)小森マシナリー、(株)セリアコーポレーション、コモリ アメリカ コーポレーション、コモリ インターナショナル ヨーロッパ ビー.ヴィ.、コモリ シャンボン エス.エイ.エス.、コモリ サウスイースト アジア プライベート リミテッド、コモリ マレーシア Sdn.Bhd.

(2) 主要な非連結子会社名・・・(株)小森興産

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社である(株)小森興産は小規模会社であり、総資産・売上高・当期純損益及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲より除外いたしました。

2 持分法の適用に関する事項

非連結子会社1社は、当期純損益及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、当該1社に対する投資については持分法を適用せず、原価法により評価しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、小森印刷機械(シンセン)有限公司及び小森機械(南通)有限公司の事業年度末日は12月31日であり、連結財務諸表の作成にあたっては連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。両社以外の連結子会社の事業年度末日と連結決算日は一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

満期保有目的債券・・・原価法

その他有価証券

時価のあるもの・・・連結決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの・・・移動平均法による原価法

たな卸資産

製品・・・個別法による原価法(収益性の低下に伴う簿価切下げの方法)

仕掛品・・・個別法による原価法(収益性の低下に伴う簿価切下げの方法)

原材料・・・主として先入先出法による原価法(収益性の低下に伴う簿価切下げの方法)

デリバティブ取引

デリバティブ取引・・・時価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物及び構築物	2年～50年
機械装置及び運搬具	2年～17年

無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェア

当社及び国内連結子会社においては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

その他

定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、主として一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

当社及び国内連結子会社は、従業員に対する賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度負担分を計上しております。

製品保証引当金

契約上の保証期間内の無償修理費の支出に備えるため、過去の売上高に対する無償修理費の実績率に基づいて算定した金額の他、必要に応じて個別の無償修理見込額を計上しております。

債務保証損失引当金

当社及び海外連結子会社の一部では、製品を購入した顧客のリース会社及び提携銀行への債務に対して当社及び当該子会社がそれぞれ実施した債務保証に係る損失に備えるため、損失発生実績率に基づいて算定した必要額の他、必要に応じて損失発生の可能性を個別に検討して算定した損失見込額を計上しております。

役員賞与引当金

当社及び国内連結子会社は、役員に対する賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度負担分を計上しております。

事業構造改善引当金

海外連結子会社の事業構造改革に伴う費用及び損失に備えるため、今後発生が見込まれる費用及び損失について、合理的に見積もられる金額を計上しております。

役員退職慰労引当金

国内連結子会社の一部は、役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づいて算定した金額を計上しております。

ポイント引当金

販売促進を目的とするキャンペーン制度の実施により発行されたポイントについて、将来利用された際の損失に備えるため、当該見込金額を計上しております。

環境対策引当金

保管中のポリ塩化ビフェニルの撤去、処分等に関する支出に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を計上しております。

訴訟損失引当金

訴訟に対する損失に備えるため、損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（主として15年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(5) 収益及び費用の計上基準

証券印刷機に係る売上高及び売上原価の計上基準

証券印刷機請負契約のうち、進捗部分について成果の確実性が認められる契約については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を採用し、その他の契約については工事完成基準を採用しております。

（追加情報）

当連結会計年度より、原価管理体制の整備強化により、一定の証券印刷機請負契約については進捗部分について成果の確実性が認められるようになったことから、これらの契約について工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を適用しております。

その結果、売上高は6,258百万円増加し、税金等調整前当期純利益は1,649百万円増加しております。

(6) 割賦販売にかかる売上利益の計上基準

割賦条件付売買契約にかかる売上利益の計上については、代金回収期限到来日基準を採用しております。

(7) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(8) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、8年以内のその効果が及ぶ期間にわたって均等償却を行っております。

(9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(10) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

（消費税等の会計処理）

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

（追加情報）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当連結会計年度から適用しております。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社に対するものは、次の通りであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
投資有価証券(株式)	73百万円	73百万円

2 偶発債務
保証債務

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
取引先機械購入資金借入・リース債務他に対する保証		
(株)精真社 他国内顧客 70件	1,927百万円	(株)新和製作所 他国内顧客 52件 1,455百万円
V-TAB VIMMERBY AB他海外顧客 34件	1,042百万円	V-TAB VIMMERBY AB他海外顧客 26件 662百万円
計	2,969百万円	計 2,117百万円
(上記のうち外貨による保証債務)		
4,113千米ドル (463百万円)		3,063千米ドル (343百万円)
4,446千ユーロ (567百万円)		2,564千ユーロ (307百万円)

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次の通りであります。

	前連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
従業員給料賃金手当	5,418百万円	5,180百万円
販売出荷費	4,401百万円	4,015百万円
研究開発費	4,974百万円	4,884百万円
製品保証引当金繰入額	548百万円	425百万円
賞与引当金繰入額	228百万円	227百万円
減価償却費	549百万円	495百万円
退職給付費用	261百万円	470百万円
貸倒引当金繰入額	122百万円	44百万円
債務保証損失引当金繰入額	33百万円	61百万円

2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次の通りであります。

	前連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
一般管理費	4,974百万円	4,884百万円

3 固定資産売却益の内容は、次の通りであります。

	前連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
機械装置及び運搬具	16百万円	39百万円
その他	0百万円	0百万円
合計	16百万円	39百万円

4 固定資産売却損の内容は、次の通りであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
機械装置及び運搬具	21百万円	19百万円
その他	0百万円	0百万円
合計	21百万円	19百万円

5 固定資産除却損の内容は、次の通りであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
建物及び構築物	3百万円	3百万円
機械装置及び運搬具	13百万円	1百万円
建設仮勘定	5百万円	0百万円
その他	4百万円	9百万円
合計	27百万円	14百万円

6 減損損失

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

地域	用途	種類	減損損失 (百万円)
東京都墨田区	のれん	無形固定資産	158
山形県高島町	遊休資産	建設仮勘定	23

当社グループは、事業用資産については事業ごとに、遊休資産については個々の資産ごとにグルーピングを行っております。

上記、のれんについては、連結子会社コモリ サウスイースト アジア プライベート リミテッドにおいて、事業譲受時に持分取得時に想定していた収益の獲得が見込めなくなったため、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失(158百万円)として特別損失に計上しております。

また、のれんについては、回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュフローを割引率3.40%で割引いて算定しております。

遊休資産については、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失(23百万円)として特別損失に計上しております。

また、遊休資産については、回収可能額は正味売却価額により測定しており、正味売却価額は0円としております。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

地域	用途	種類	減損損失 (百万円)
中国南通市	事業用資産	建物及び機械装置他	353
千葉県野田市	遊休資産	土地及び建物	200

当社グループは、事業用資産については事業ごとに、遊休資産については個々の資産ごとにグルーピングを行っております。

上記、事業用資産については、連結子会社小森機械(南通)有限公司において、中国市場の事業環境の悪化に伴い計画していた収益の獲得が見込めなくなったため、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失(353百万円)として特別損失に計上しております。

その内訳は、建物284百万円、機械装置59百万円、その他9百万円であります。

また、回収可能額は正味売却価額により測定しており、建物及び機械装置他については主として不動産鑑定評価額により評価しております。

遊休資産については、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失(200百万円)として特別損失に計上しております。

その内訳は、土地138百万円、建物62百万円であります。

また、回収可能額は正味売却価額により測定しており、土地及び建物については査定価格により評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	1,041	2,507
組替調整額	0	0
計	1,041	2,507
為替換算調整勘定		
当期発生額	785	479
計	785	479
退職給付に係る調整額		
当期発生額	2,350	65
組替調整額	232	384
計	2,118	449
税効果調整前合計	3,945	2,476
税効果額	710	174
その他の包括利益合計	3,234	2,302

2 その他の包括利益に係る税効果額

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
税効果調整前	1,041	2,507
税効果額	258	701
税効果調整後	783	1,805
為替換算調整勘定		
税効果調整前	785	479
税効果調整後	785	479
退職給付に係る調整額		
税効果調整前	2,118	449
税効果額	452	527
税効果調整後	1,666	977
その他の包括利益合計		
税効果調整前	3,945	2,476
税効果額	710	174
税効果調整後	3,234	2,302

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	68,292,340	-	-	68,292,340

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	6,327,390	1,127	-	6,328,517

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取請求による増加

1,127株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年6月23日 定時株主総会	普通株式	1,239	20	平成27年3月31日	平成27年6月24日
平成27年10月29日 取締役会	普通株式	1,239	20	平成27年9月30日	平成27年11月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月21日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,239	20	平成28年3月31日	平成28年6月22日

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	68,292,340	-	6,000,000	62,292,340

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	6,328,517	3,737,376	6,000,000	4,065,893

(変動事由の概要)

増減数の主な内訳は、次の通りであります。

平成28年7月1日の取締役会決議による自己株式の取得による増加 3,736,500株

単元未満株式の買取請求による増加 876株

平成28年7月1日の取締役会決議による自己株式の消却による減少 6,000,000株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月21日 定時株主総会	普通株式	1,239	20	平成28年3月31日	平成28年6月22日
平成28年10月31日 取締役会	普通株式	1,200	20	平成28年9月30日	平成28年11月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月20日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,164	20	平成29年3月31日	平成29年6月21日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次の通りであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
現金及び預金勘定	50,034百万円	40,712百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	2,994百万円	910百万円
有価証券勘定(預入期間が3ヶ月以内の譲渡性預金)	7,600百万円	10,350百万円
有価証券勘定(預入期間が3ヶ月以内の合同運用金銭信託)	4,500百万円	4,500百万円
現金及び現金同等物	59,140百万円	54,652百万円

(リース取引関係)

- 1 ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主としてコンピュータ(工具、器具及び備品)

無形固定資産

ソフトウェア

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

- 2 オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
1年内	57	53
1年超	105	85
合計	162	138

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産に限定し、資金調達については銀行等金融機関からの借入及び無担保普通社債の発行を行っております。デリバティブは、売上債権等の為替リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行ないません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されています。信用リスクにつきましては、当社及び各子会社の担当部門が期日管理及び残高管理を行うとともに、未回収債権状況についてモニタリングしております。為替の変動リスクについては原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、投機的取引はございません。また、財務部において定期的に時価を把握しており、重要な購入及び売却は取締役会に報告されております。

営業債務である支払手形、買掛金及び電子記録債務は、1年以内の支払期日となっております。

借入金には主に海外子会社の営業取引に係る資金調達であり、銀行借入枠を定めており、借入残高について定期的に把握しております。

デリバティブ取引は一般に、市場リスク及び信用リスクを内包しております。市場リスクは、為替相場や金利等の変動により損失を被る可能性ですが、限定的なヘッジ目的ないし取引金額から判断して、過大な市場リスクを負担することはありません。信用リスクは、取引の相手方の契約不履行により損失を被る可能性ですが、大手金融機関のみを取引相手としており信用リスクはないと判断しております。取引の内容及び利用目的は外貨建債権・債務に関する為替相場の変動リスクを回避する目的で、為替予約取引を利用しております。なお、これらについては、原則として、上記目的の範囲内でデリバティブ取引を利用することにしており、投機的取引は行わない方針です。為替予約取引は、予約枠を含む予約方針の決定に基づき執行され、取引の実行及び管理は財務部門が行い、取引結果を担当役員に報告しております。デリバティブ取引の状況については、毎四半期ごとに取締役会に報告しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。

(注2)をご参照ください。

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	連結貸借対照表計上額(*) (百万円)	時価(*) (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	50,034	50,034	-
(2) 受取手形及び売掛金	18,114	18,114	-
(3) 有価証券及び投資有価証券	30,512	30,513	1
(4) デリバティブ取引	227	227	-
(5) 支払手形及び買掛金	(12,435)	(12,435)	-
(6) 電子記録債務	(6,395)	(6,395)	-
(7) 短期借入金	(40)	(40)	-
(8) 長期借入金	(25)	(25)	0
(9) 未払法人税等	(713)	(713)	-
(10) 社債	(10,000)	(10,103)	103

(*)負債に計上されているものについては、()で示しております。

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表計上額(*) (百万円)	時価(*) (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	40,712	40,712	-
(2) 受取手形及び売掛金	21,800	21,800	-
(3) 有価証券及び投資有価証券	32,428	32,434	6
(4) デリバティブ取引	30	30	-
(5) 支払手形及び買掛金	(11,622)	(11,622)	-
(6) 電子記録債務	(6,022)	(6,022)	-
(7) 短期借入金	(48)	(48)	-
(8) 長期借入金	-	-	-
(9) 未払法人税等	(238)	(238)	-
(10) 社債	(10,000)	(10,071)	71

(*)負債に計上されているものについては、()で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。また、回収まで1年以上要するものもありますが、顧客の信用状態が大きく異ならない限り、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。債券は取引金融機関から提示された金額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記をご参照ください。

(4) デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記をご参照ください。

(5) 支払手形及び買掛金、(6) 電子記録債務、(7) 短期借入金、(9) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(10) 社債

社債は日本証券業協会の売買参考統計値より算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成28年3月31日	平成29年3月31日
非上場株式	312	325
合計	312	325

上記については、市場価額がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	50,034	-	-	-
受取手形及び売掛金	17,735	565	5	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
合同運用金銭信託	5,500	-	-	-
債券	500	2,500	900	-
その他有価証券のうち満期があるもの				
譲渡性預金	13,321	-	-	-
合計	87,091	3,065	905	-

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	40,712	-	-	-
受取手形及び売掛金	21,791	301	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
合同運用金銭信託	6,500	-	-	-
債券	100	2,400	900	-
その他有価証券のうち満期があるもの				
譲渡性預金	11,196	-	-	-
コマーシャル・ペーパー	899	-	-	-
合計	81,200	2,701	900	-

(注4) 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	17	-	-	-	-	-
社債	-	-	10,000	-	-	-
長期借入金	23	23	2	-	-	-
リース債務	154	141	90	41	7	6
合計	195	164	10,092	41	7	6

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	48	-	-	-	-	-
社債	-	10,000	-	-	-	-
長期借入金	-	-	-	-	-	-
リース債務	151	95	57	17	4	2
合計	200	10,095	57	17	4	2

(有価証券関係)

1 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

区分	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	債券	1,900	1,906	6
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	債券	2,000	1,994	5
合計		3,900	3,901	1

(注) 上表の「満期保有目的の債券」に含めていない合同運用金銭信託5,500百万円を保有しております。合同運用金銭信託は、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

当連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	債券	2,500	2,508	8
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	債券	900	898	1
合計		3,400	3,406	6

(注) 上表の「満期保有目的の債券」に含めていない合同運用金銭信託6,500百万円及びコマーシャル・ペーパー899百万円を保有しております。合同運用金銭信託及びコマーシャル・ペーパーは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2 その他有価証券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

区分	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	7,384	3,743	3,641
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	406	451	44
合計		7,791	4,194	3,596

(注) 上表の「その他有価証券」に含めていない譲渡性預金13,321百万円を保有しております。譲渡性預金は、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

当連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	10,371	4,250	6,121
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	59	76	16
合計		10,431	4,327	6,104

(注) 上表の「その他有価証券」に含めていない譲渡性預金11,196百万円を保有しております。譲渡性預金は、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

3 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	22	0	-
合計	22	0	-

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	0	0	0
合計	0	0	0

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の取引	為替予約取引				
	売建	6,132	-	227	227
合計		6,132	-	227	227

(注) 時価については、主たる金融機関から提示された価格によっております。

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の取引	為替予約取引				
	売建	2,944	-	30	30
合計		2,944	-	30	30

(注) 時価については、主たる金融機関から提示された価格によっております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(平成28年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成29年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付年金制度及び確定拠出制度を採用しております。

また、従業員の退職等に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
退職給付債務の期首残高	17,985	19,300
勤務費用	655	744
利息費用	325	153
数理計算上の差異の発生額	1,437	900
退職給付の支払額	617	718
その他	485	675
退職給付債務の期末残高	19,300	19,704

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
年金資産の期首残高	17,268	17,179
期待運用収益	371	350
数理計算上の差異の発生額	399	788
事業主からの拠出額	1,140	964
退職給付の支払額	598	703
その他	603	790
年金資産の期末残高	17,179	17,789

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	373	410
退職給付費用	74	72
退職給付の支払額	32	43
制度への拠出額	4	4
退職給付に係る負債の期末残高	410	435

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	19,272	19,677
年金資産	17,209	17,823
	2,062	1,853
非積立型制度の退職給付債務	471	496
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,534	2,350
退職給付に係る負債	3,657	3,350
退職給付に係る資産	1,123	1,000
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,534	2,350

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
勤務費用	655	744
利息費用	325	153
期待運用収益	371	350
数理計算上の差異の費用処理額	182	450
簡便法で計算した退職給付費用	74	72
その他	16	12
確定給付制度に係る退職給付費用	850	1,056

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次の通りであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
数理計算上の差異	2,118	449
合計	2,118	449

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次の通りであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
未認識数理計算上の差異	2,989	2,539
合計	2,989	2,539

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次の通りであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
債券	43%	41%
株式	20%	16%
現金及び預金	0%	4%
一般勘定	31%	31%
その他	7%	8%
合計	100%	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表している。）

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
割引率	0.9%	0.7%
長期期待運用収益率	2.2%	1.9%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度131百万円、当連結会計年度162百万円であります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
(繰延税金資産)		
税務上の繰越欠損金	2,221百万円	2,248百万円
研究開発費	2,591百万円	2,626百万円
減損損失	515百万円	149百万円
たな卸資産評価損	481百万円	585百万円
債務保証損失引当金	139百万円	109百万円
製品保証引当金	227百万円	176百万円
賞与引当金	333百万円	326百万円
貸倒引当金	85百万円	112百万円
退職給付に係る負債	292百万円	828百万円
資産の未実現利益	762百万円	534百万円
その他	808百万円	1,039百万円
小計	8,458百万円	8,738百万円
評価性引当額	1,809百万円	1,577百万円
繰延税金資産合計	6,648百万円	7,161百万円
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	927百万円	1,629百万円
固定資産圧縮積立金	210百万円	207百万円
退職給付に係る資産	202百万円	170百万円
その他	94百万円	47百万円
繰延税金負債合計	1,435百万円	2,055百万円
繰延税金資産の純額	5,212百万円	5,105百万円

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	5,454百万円	4,795百万円
固定資産 - 繰延税金資産	1,098百万円	1,543百万円
固定負債 - 繰延税金負債	1,341百万円	1,234百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率	32.83 %	30.69 %
(調整)		
評価性引当額増減額	40.45 %	7.67 %
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	1.56 %	13.33 %
試験研究費税額控除	2.70 %	5.53 %
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.32 %	2.10 %
海外連結子会社の税率差異	0.77 %	1.15 %
未実現利益の税効果未認識額	0.48 %	16.06 %
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	10.46 %	- %
その他	1.29 %	3.31 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	3.63 %	20.17 %

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高経営責任者が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループの事業は印刷機械の製造、販売並びに修理加工等を行っております。生産体制は一部の製品を除き一括して日本で行う体制になっておりますが、販売体制は、海外の重要販売拠点に子会社を展開してグローバルな体制になっております。海外の重要販売拠点となっている海外子会社はそれぞれ独立した経営単位で、各地域での包括的な販売戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって当社グループは、販売体制を基礎とした各会社の所在地別のセグメントから構成されており、「日本」、「北米」及び「欧州」の3つを報告セグメントとしております。

各セグメントの主な販売地域は以下の通りです。

報告セグメント「日本」は、国内、中南米、及び中華圏の一部を除くアジアや、海外証券印刷機の販売が含まれ、当社及び株式会社セリアコーポレーションの販売担当地区となっております。

報告セグメント「北米」は、主としてアメリカ合衆国での販売が含まれ、コモリ アメリカ コーポレーションの販売担当地区となっております。

報告セグメント「欧州」は、主として西欧、東欧、中東地域での販売が含まれ、コモリ インターナショナル ヨーロッパ ビー.ヴィ.グループの販売担当地区となっております。また、紙器印刷機械の製造販売をしておりますコモリ シャンボン エス.エイ.エス.も当セグメントに含んでおります。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場価格等を考慮した仕切価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	日本	北米	欧州	計		
売上高						
外部顧客への売上高	60,511	12,758	17,461	90,731	4,594	95,326
セグメント間の内部 売上高又は振替高	18,940	31	1,065	20,037	1,384	21,422
計	79,451	12,790	18,526	110,769	5,979	116,749
セグメント利益又は損失（ ）	5,266	199	857	6,323	84	6,238
セグメント資産	164,911	10,176	13,171	188,259	3,664	191,923
その他の項目						
減価償却費	1,679	28	223	1,930	95	2,026
減損損失	182	-	-	182	-	182
のれんの償却額	180	-	-	180	-	180
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	3,054	108	283	3,446	88	3,534

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、香港、台湾、シンガポール、マレーシアの販売子会社及び中国南通市の印刷機械装置製造子会社であります。

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	日本	北米	欧州	計		
売上高						
外部顧客への売上高	55,509	10,124	16,820	82,454	4,163	86,618
セグメント間の内部 売上高又は振替高	16,197	61	830	17,089	902	17,991
計	71,707	10,186	17,650	99,544	5,065	104,609
セグメント利益又は損失（ ）	437	75	672	1,185	158	1,026
セグメント資産	156,951	8,874	12,064	177,890	3,386	181,277
その他の項目						
減価償却費	1,770	23	256	2,050	82	2,132
減損損失	200	-	-	200	353	553
のれんの償却額	151	-	-	151	-	151
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,270	23	340	1,633	134	1,768

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、香港、台湾、シンガポール、マレーシアの販売子会社及び中国南通市の印刷機械装置製造子会社であります。

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	110,769	99,544
「その他」の区分の売上高	5,979	5,065
セグメント間取引消去	21,422	17,991
連結財務諸表の売上高	95,326	86,618

(単位:百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	6,323	1,185
「その他」の区分の損失()	84	158
たな卸資産の調整額	289	587
セグメント間取引消去	84	97
その他の調整額	0	0
連結財務諸表の営業利益	6,612	1,712

(単位:百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	188,259	177,890
「その他」の区分の資産	3,664	3,386
たな卸資産の調整額	1,855	1,267
セグメント間消去	36,498	34,525
全社資産(注)	33,929	34,045
その他の調整額	674	570
連結財務諸表の資産合計	188,173	180,100

(注) 全社資産の主なものは、当社での余資運用資金(預金及び有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)に係る資産等であり、

(単位:百万円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	1,930	2,050	95	82	0	0	2,026	2,132
減損損失	182	200	-	353	-	-	182	553
のれんの償却額	180	151	-	-	-	-	180	151
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	3,446	1,633	88	134	-	-	3,534	1,768

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

（単位：百万円）

	印刷機械製造及び販売部門	修理加工及び中古製品販売部門	合計
外部顧客への売上高	77,149	18,177	95,326

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	米州	欧州	アジア	その他地域	合計
40,294	13,310	16,380	23,115	2,225	95,326

（注）売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため記載はありません。

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

（単位：百万円）

	印刷機械製造及び販売部門	修理加工及び中古製品販売部門	合計
外部顧客への売上高	69,028	17,590	86,618

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	米州	欧州	アジア	その他地域	合計
34,383	11,052	20,400	17,066	3,715	86,618

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

前連結会計年度にシンガポールの販売代理店KM Link社の株式の92.5%を取得し、現地法人コモリ サウスイースト アジア プライベート リミテッドに商号変更（非連結子会社）。当連結会計年度より連結子会社とした事に伴い、「日本」セグメントにおいてのれんが発生しております。

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他	合計
	日本	北米	欧州	計		
当期末残高	815	-	-	815	-	815

(注)のれん償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他	合計
	日本	北米	欧州	計		
当期末残高	657	-	-	657	-	657

(注)のれん償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり純資産額	2,192.83円	2,256.47円
1株当たり当期純利益金額	105.26円	10.94円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	6,522	657
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	6,522	657
普通株式の期中平均株式数(千株)	61,964	60,136

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	135,890	131,386
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	14	-
(うち非支配株主持分(百万円))	(14)	(-)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	135,876	131,386
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通 株式の数(千株)	61,963	58,226

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
(株)小森コーポレーション	第1回無担保社債	平成25年 12月13日	10,000	10,000	0.549	無担保社債	平成30年 12月13日
合計			10,000	10,000			

(注) 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
	10,000			

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	17	48	1.5	-
1年以内に返済予定の長期借入金	23	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	154	151	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	25	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	287	177	-	平成30年4月～ 平成36年3月
合計	509	378	-	-

- (注) 1 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
なお、リース債務の「平均利率」については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額で連結貸借対照表に計上しているため記載しておりません。
- 2 リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下の通りであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
リース債務	95	57	17	4

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当該連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	14,876	33,934	57,002	86,618
税金等調整前当期 純利益金額又は 税金等調整前四半期 純損失金額 () (百万円)	2,900	3,004	1,021	824
親会社株主に帰属する 当期純利益金額又は 親会社株主に帰属する 四半期純損失金額 () (百万円)	2,178	3,580	1,655	657
1 株当たり当期純利益金額 又は 1 株当たり四半期純損失金 額 () (円)	35.15	58.31	27.27	10.94

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1 株当たり四半期純利益金 額又は四半期純損失 () (円)	35.15	22.99	32.45	39.73

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	39,574	30,487
受取手形	2 5,220	2 3,027
売掛金	2 16,151	2 19,456
電子記録債権	239	2,026
有価証券	14,900	15,399
商品及び製品	10,148	10,074
仕掛品	5,818	5,713
原材料及び貯蔵品	5,875	6,199
前渡金	129	86
前払費用	412	262
1年内満期保険積立金	629	538
繰延税金資産	3,775	3,532
関係会社短期貸付金	1,787	2,755
その他	2 910	2 426
貸倒引当金	29	49
流動資産合計	105,545	99,936
固定資産		
有形固定資産		
建物	21,643	21,716
減価償却累計額	12,500	13,025
建物（純額）	9,142	8,690
構築物	1,973	1,972
減価償却累計額	1,601	1,620
構築物（純額）	372	352
機械及び装置	9,670	8,762
減価償却累計額	7,473	6,714
機械及び装置（純額）	2,196	2,048
車両運搬具	181	180
減価償却累計額	174	175
車両運搬具（純額）	6	5
工具、器具及び備品	4,342	3,818
減価償却累計額	3,969	3,474
工具、器具及び備品（純額）	372	343
土地	16,225	16,097
リース資産	412	492
減価償却累計額	168	222
リース資産（純額）	243	270
建設仮勘定	6	5
有形固定資産合計	28,565	27,813

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
無形固定資産		
借地権	356	356
ソフトウェア	492	566
リース資産	71	60
ソフトウェア仮勘定	254	14
その他	870	696
無形固定資産合計	2,045	1,695
投資その他の資産		
投資有価証券	11,828	13,876
関係会社株式	11,127	10,332
関係会社長期貸付金	1,607	1,266
破産更生債権等	51	25
長期前払費用	801	801
保険積立金	5,945	6,040
前払年金費用	440	485
長期預金	500	-
その他	259	263
貸倒引当金	228	198
投資損失引当金	255	292
投資その他の資産合計	32,080	32,600
固定資産合計	62,691	62,109
資産合計	168,236	162,046
負債の部		
流動負債		
支払手形	1,176	996
買掛金	2 9,019	2 9,149
電子記録債務	6,395	6,022
リース債務	110	109
未払金	2 1,438	2 1,254
未払費用	715	798
未払法人税等	461	133
前受金	2 5,837	2 6,740
預り金	2 852	2 719
賞与引当金	772	750
製品保証引当金	483	328
債務保証損失引当金	246	185
ポイント引当金	1	0
役員賞与引当金	25	30
割賦利益繰延	1 50	1 46
その他	2 311	118
流動負債合計	27,898	27,381

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
固定負債		
社債	10,000	10,000
リース債務	204	122
繰延税金負債	1,267	1,750
長期未払金	285	285
退職給付引当金	-	113
訴訟損失引当金	250	110
ポイント引当金	0	0
環境対策引当金	10	10
資産除去債務	14	14
その他	0	160
固定負債合計	12,032	12,566
負債合計	39,930	39,948
純資産の部		
株主資本		
資本金	37,714	37,714
資本剰余金		
資本準備金	37,797	37,797
資本剰余金合計	37,797	37,797
利益剰余金		
利益準備金	2,122	2,122
その他利益剰余金		
圧縮記帳積立金	390	388
別途積立金	44,000	45,000
繰越利益剰余金	8,578	330
利益剰余金合計	55,091	47,180
自己株式	4,956	5,055
株主資本合計	125,647	117,636
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,658	4,462
評価・換算差額等合計	2,658	4,462
純資産合計	128,306	122,098
負債純資産合計	168,236	162,046

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	当事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)
売上高		
製品売上高	4 63,168	4 56,704
中古製品売上高	765	319
部品及び修理収入	4 9,618	4 10,184
売上高合計	73,551	67,208
売上原価		
製品売上原価	4 43,651	4 41,245
中古製品売上原価	664	286
部品及び修理原価	4 8,194	4 8,539
売上原価合計	52,510	50,071
割賦販売未実現利益戻入額	18	4
売上総利益	21,060	17,140
販売費及び一般管理費		
販売手数料	235	680
販売出荷費	3,008	2,866
広告宣伝費	531	521
製品保証引当金繰入額	501	390
支払手数料	834	857
貸倒引当金繰入額	127	22
債務保証損失引当金繰入額	7	61
給料手当及び賞与	2,640	2,675
賞与引当金繰入額	211	208
役員賞与引当金繰入額	25	30
減価償却費	336	296
研究開発費	4,863	4,669
その他の経費	3,272	3,708
販売費及び一般管理費合計	16,595	16,866
営業利益	4,464	274

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
営業外収益		
受取遅延損害金	242	-
受取利息	4 63	4 46
割賦販売受取利息	6	1
受取配当金	4 398	4 536
技術指導料	4 232	4 247
雑収入	4 296	4 259
営業外収益合計	1,239	1,091
営業外費用		
社債利息	54	54
手形売却損	16	20
為替差損	240	428
損害賠償金	164	239
訴訟損失引当金繰入額	140	-
雑支出	72	48
営業外費用合計	689	792
経常利益	5,014	573
特別利益		
固定資産売却益	1 1	1 2
特別利益合計	1	2
特別損失		
固定資産売却損	2 19	2 12
固定資産除却損	3 8	3 10
減損損失	-	200
関係会社株式評価損	-	895
投資損失引当金繰入額	255	37
特別損失合計	283	1,155
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	4,733	578
法人税、住民税及び事業税	635	33
法人税等調整額	154	24
法人税等合計	790	9
当期純利益又は当期純損失()	3,942	569

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)		当事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
製品売上原価					
製品期首棚卸高		7,417		10,148	
当期製品製造原価		32,971		29,849	
外注製品仕入高	1	13,321		11,143	
計		53,710		51,141	
たな卸資産廃棄損及び評価損		90		55	
製品期末棚卸高		10,148	43,651	9,950	41,245
中古製品売上原価					
中古製品期首棚卸高		82		-	
中古製品引取高		581		419	
中古製品修理原価		0		0	
計		664		419	
他勘定への振替高	2	-		8	
中古製品期末棚卸高		-	664	124	286
部品及び修理原価	3		8,194		8,539
売上原価計			52,510		50,071

(注) 1 主として関係会社(株)小森マシナリーからの小型枚葉印刷機械の製品仕入高であります。

2 他勘定への振替高の主な内訳は次の通りであります。

項目	前事業年度(百万円)	当事業年度(百万円)
部品及び修理原価	-	8

3 部品及び修理原価の主な内訳は次の通りであります。

項目	前事業年度(百万円)	当事業年度(百万円)
購入部品	2,982	2,548
労務費	2,782	2,849
外注作業費	905	886

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計
					圧縮記帳 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	37,714	37,797	37,797	2,122	383	44,000	7,121	53,627
当期変動額								
剰余金の配当							2,478	2,478
当期純利益又は当期純 損失()							3,942	3,942
圧縮記帳積立金の取崩					1		1	-
圧縮記帳積立金の積立					8		8	-
別途積立金の積立								-
自己株式の取得								-
自己株式の消却								-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	6	-	1,457	1,464
当期末残高	37,714	37,797	37,797	2,122	390	44,000	8,578	55,091

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	4,954	124,184	3,437	3,437	127,621
当期変動額					
剰余金の配当		2,478			2,478
当期純利益又は当期純 損失()		3,942			3,942
圧縮記帳積立金の取崩		-			-
圧縮記帳積立金の積立		-			-
別途積立金の積立		-			-
自己株式の取得	1	1			1
自己株式の消却		-			-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			778	778	778
当期変動額合計	1	1,462	778	778	684
当期末残高	4,956	125,647	2,658	2,658	128,306

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計
					圧縮記帳 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	37,714	37,797	37,797	2,122	390	44,000	8,578	55,091
当期変動額								
剰余金の配当							2,440	2,440
当期純利益又は当期純 損失()							569	569
圧縮記帳積立金の取崩					2		2	-
圧縮記帳積立金の積立								-
別途積立金の積立						1,000	1,000	-
自己株式の取得								-
自己株式の消却							4,901	4,901
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	2	1,000	8,908	7,911
当期末残高	37,714	37,797	37,797	2,122	388	45,000	330	47,180

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	4,956	125,647	2,658	2,658	128,306
当期変動額					
剰余金の配当		2,440			2,440
当期純利益又は当期純 損失()		569			569
圧縮記帳積立金の取崩		-			-
圧縮記帳積立金の積立		-			-
別途積立金の積立		-			-
自己株式の取得	5,001	5,001			5,001
自己株式の消却	4,901	-			-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			1,803	1,803	1,803
当期変動額合計	99	8,011	1,803	1,803	6,207
当期末残高	5,055	117,636	4,462	4,462	122,098

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

満期保有目的債券

原価法

関係会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの・・・決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの・・・移動平均法による原価法

(2) たな卸資産

製品・・・・・・個別法による原価法(収益性の低下に伴う簿価切下げの方法)

仕掛品・・・・・・個別法による原価法(収益性の低下に伴う簿価切下げの方法)

原材料・・・・・・先入先出法による原価法(収益性の低下に伴う簿価切下げの方法)

(3) デリバティブ

デリバティブ取引・・・・・・時価法

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物及び構築物 2年～50年

機械装置及び運搬具 2年～17年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェア

社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

その他

定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度負担分を計上しております。

(3) 製品保証引当金

契約上の保証期間内の無償修理費の支出に備えるため、過去の売上高に対する無償修理費の実績率に基づいて算定した金額の他、必要に応じて個別の無償修理見込額を計上しております。

(4) 債務保証損失引当金

製品を購入した顧客のリース会社及び提携銀行への債務に対して当社が実施した債務保証に係る損失に備えるため、損失発生実績率に基づいて算定した必要額の他、必要に応じて損失発生の可能性を個別に検討して算定した損失見込額を計上しております。

(5) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度負担分を計上しております。

(6) 退職給付引当金（前払年金費用）

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（主として15年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

(7) ポイント引当金

販売促進を目的とするキャンペーン制度の実施により発行されたポイントについて、将来利用された際の損失に備えるため当該見込金額を計上しております。

(8) 環境対策引当金

保管中のポリ塩化ビフェニルの撤去、処分等に関する支出に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を計上しております。

(9) 訴訟損失引当金

訴訟に対する損失に備えるため、損失見込額を計上しております。

(10) 投資損失引当金

関係会社株式の価値の下落による損失に備えるため、財政状態等を勘案した必要額を計上しております。

4 収益及び費用の計上基準

証券印刷機に係る売上高及び売上原価の計上基準

証券印刷機請負契約のうち、進捗部分について成果の確実性が認められる契約については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を採用し、その他の契約については工事完成基準を採用しております。

（追加情報）

当事業年度より、原価管理体制の整備強化により、一定の証券印刷機請負契約については進捗部分について成果の確実性が認められるようになったことから、これらの契約については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を適用しております。

その結果、売上高は6,258百万円増加し、税引前当期純損失は1,649百万円減少しております。

5 割賦販売にかかる売上利益の計上基準

割賦条件付売買契約にかかる売上利益の計上については、代金回収期限到来日基準を採用しております。

6 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

1 割賦利益繰延

割賦販売に係る売上利益のうち、受取手形決済日未到来のため、翌期以降の利益に繰延べたものであります。

2 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは次の通りであります。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
受取手形	1,041百万円	591百万円
売掛金	9,541百万円	7,688百万円
流動資産 その他	165百万円	110百万円
買掛金	6,352百万円	5,953百万円
未払金	213百万円	212百万円
前受金	130百万円	264百万円
預り金	233百万円	138百万円
流動負債 その他	9百万円	-百万円

3 偶発債務

保証債務

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)	
取引先機械購入他資金借入債務に対する保証		取引先機械購入他資金借入債務に対する保証	
(株)精真社	152百万円	(株)新和製作所	142百万円
白山印刷(株)	148百万円	(株)明和商会	129百万円
誠友社印刷工業(株)	144百万円	誠友社印刷工業(株)	112百万円
(株)スバルグラフィックス	134百万円	(株)精真社	110百万円
その他(68社)	1,357百万円	その他(50社)	970百万円
小計	1,938百万円	小計	1,466百万円
関係会社銀行借入金他に対する保証		関係会社銀行借入金他に対する保証	
小森機械(南通)有限公司.	143百万円	小森機械(南通)有限公司.	204百万円
コモリ シャンボン エス.エイ.エス. 他2社	143百万円	コモリ シャンボン エス.エイ.エ ス.他2社	108百万円
小計	286百万円	小計	313百万円
計	2,225百万円	計	1,779百万円

(上記のうち外貨による保証債務)

1,730千米ドル (195百万円)	2,556千米ドル (286百万円)
120千英ポンド (19百万円)	80千英ポンド (9百万円)
567千ユーロ (72百万円)	120千ユーロ (16百万円)

(損益計算書関係)

1 固定資産売却益の内容は、次の通りであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
機械及び装置	1百万円	2百万円
合計	1百万円	2百万円

2 固定資産売却損の内容は、次の通りであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
機械及び装置	19百万円	12百万円
工具、器具及び備品	0百万円	-百万円
合計	19百万円	12百万円

3 固定資産除却損の内容は、次の通りであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
建物	-百万円	2百万円
構築物	-百万円	0百万円
機械及び装置	4百万円	8百万円
車両運搬具	0百万円	0百万円
工具、器具及び備品	4百万円	0百万円
合計	8百万円	10百万円

4 関係会社との取引に係るもの

関係会社との取引に係るものが次の通り含まれております。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
製品売上高	17,687百万円	14,946百万円
部品及び修理収入	1,265百万円	1,270百万円
仕入高	19,208百万円	17,099百万円
受取利息	14百万円	15百万円
受取配当金	204百万円	304百万円
技術指導料	225百万円	240百万円
雑収入	6百万円	4百万円

(有価証券関係)

前事業年度(平成28年3月31日現在)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 11,127百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成29年3月31日現在)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 10,332百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
(繰延税金資産)		
関係会社株式評価損	4,428百万円	4,712百万円
研究開発費	2,591百万円	2,626百万円
税務上の繰越欠損金	984百万円	901百万円
たな卸資産評価損	212百万円	275百万円
有価証券減損	253百万円	253百万円
賞与引当金	237百万円	230百万円
製品保証引当金	148百万円	100百万円
役員退職引当金	86百万円	86百万円
事業税	86百万円	86百万円
減損損失	-百万円	60百万円
債務保証損失引当金	75百万円	56百万円
貸倒引当金	51百万円	55百万円
訴訟損失引当金	76百万円	33百万円
その他	217百万円	250百万円
小計	9,450百万円	9,731百万円
評価性引当額	5,658百万円	5,950百万円
繰延税金資産合計	3,792百万円	3,780百万円
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	927百万円	1,629百万円
固定資産圧縮記帳積立金	171百万円	169百万円
前払年金費用	134百万円	147百万円
その他	50百万円	50百万円
繰延税金負債合計	1,284百万円	1,998百万円
繰延税金資産の純額	2,508百万円	1,782百万円

(注) 前事業年度及び当事業年度における繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	3,775百万円	3,532百万円
固定負債 - 繰延税金負債	1,267百万円	1,750百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率	32.83 %	30.69 %
(調整)		
評価性引当額増減額	23.02 %	50.56 %
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.42 %	2.98 %
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	2.08 %	18.97 %
試験研究費税額控除	2.56 %	2.71 %
税率変更による増減	12.74 %	- %
その他	1.64 %	2.77 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	16.69 %	1.60 %

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	21,643	153	79 (62)	21,716	13,025	540	8,690
構築物	1,973	1	2	1,972	1,620	21	352
機械及び装置	9,670	92	1,000	8,762	6,714	216	2,048
車両運搬具	181	-	0	180	175	1	5
工具、器具及び備品	4,342	172	695	3,818	3,474	200	343
土地	16,225	9	138 (138)	16,097	-	-	16,097
リース資産	412	122	42	492	222	95	270
建設仮勘定	6	459	460	5	-	-	5
有形固定資産計	54,454	1,011	2,419 (200)	53,045	25,232	1,076	27,813
無形固定資産							
借地権	356	-	-	356	-	-	356
ソフトウェア	2,012	291	-	2,304	1,738	217	566
リース資産	122	34	26	130	69	27	60
ソフトウェア仮勘定	254	73	313	14	-	-	14
その他	1,534	-	-	1,534	837	173	696
無形固定資産計	4,281	383	339	4,324	2,628	418	1,695
長期前払費用	804	0	1	803	2	0	801

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次の通りであります。

ソフトウェア	本社	会計システムCompany	222百万円
工具、器具及び備品	つくば	木型・金型等	102百万円
建物	本社	本社空調工事 期 エアコン一式	78百万円

2. 当期減少額のうち()内は内書きで減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	257	248	7	250	248
投資損失引当金	255	37	-	-	292
賞与引当金	772	750	772	-	750
製品保証引当金	483	328	483	-	328
債務保証損失引当金	246	185	-	246	185
訴訟損失引当金	250	-	140	-	110
ポイント引当金	1	0	1	-	0
役員賞与引当金	25	30	25	-	30
退職給付引当金	-	113	-	-	113
環境対策引当金	10	-	-	-	10

(注) 1. 貸倒引当金の当期減少額その他は、洗替による取崩額250百万円であります。

2. 債務保証損失引当金の当期減少額その他は、洗替による取崩額246百万円であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・ 売渡し	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として、別途定める金額
公告掲載方法	電子公告としております。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載しております。
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

1. 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
2. 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
3. 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
4. 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第70期(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)平成28年6月22日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成28年6月22日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第71期第1四半期(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)平成28年8月5日関東財務局長に提出

第71期第2四半期(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)平成28年11月8日関東財務局長に提出

第71期第3四半期(自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日)平成29年2月9日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使結果）の規定に基づく臨時報告書

平成28年6月22日関東財務局長に提出

(5) 自己株券買付状況報告書

平成28年8月4日、平成28年9月5日、平成28年10月5日、平成28年11月4日、平成28年12月5日、平成29年1月5日関東財務局長に提出

(6) 訂正発行登録書（株券、社債券等）

平成28年7月5日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成29年6月21日

株式会社小森コーポレーション
取締役会 御中

P w C あらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	柴	毅	印		
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	塩	谷	岳	志	印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社小森コーポレーションの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社小森コーポレーション及び連結子会社の平成29年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

注記事項 収益及び費用の計上基準（追加情報）に記載されているとおり、会社は一定の証券印刷機請負契約について、当連結会計年度より工事進行基準を適用している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社小森コーポレーションの平成29年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社小森コーポレーションが平成29年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- () 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成29年6月21日

株式会社小森コーポレーション
取締役会 御中

PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	柴		毅	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	塩	谷	岳	志 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社小森コーポレーションの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第71期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社小森コーポレーションの平成29年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

注記事項 収益及び費用の計上基準（追加情報）に記載されているとおり、会社は一定の証券印刷機請負契約について、当事業年度より工事進行基準を適用している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- () 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。